

山梨県韮崎市

宮ノ前第2遺跡  
北堂地遺跡

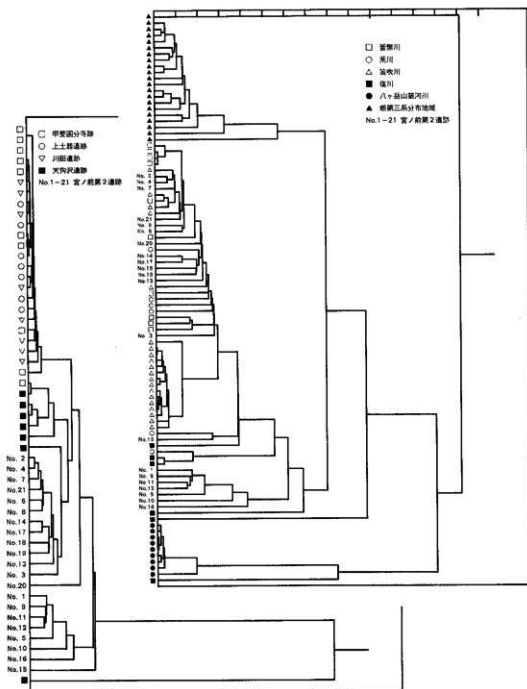
果営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



1991

韮崎市教育委員会  
峡北土地改良事務所

一 第③図 河川砂と瓦の樹形図



第④図 山梨県内出土瓦の樹形図

## 【宮ノ前第2遺跡胎土分析データの修正】

前回報告の宮ノ前第2遺跡出土瓦の胎土分析（河西、1991）のクラスター分析において、コンピュータプログラムに誤りがあったことが判明いたしました。ここにお詫び申し上げますとともに、以下に修正項目のみを掲載し訂正いたします。

### b. クラスター分析

第③図は甲府盆地河川砂と本遺跡出土瓦とを比較した樹形図である。全体の傾向として本遺跡出土瓦は第三系分布地域や八ヶ岳南麓地域の河川砂とは類似性に乏しい。I群（Nos. 2, 3, 4, 6, 7, 8, 13, 20, 21）、II群（Nos. 14, 17）、およびIII群（Nos. 18, 19）は釜無川・笛吹川・荒川河川砂と同一のクラスターを形成している。しかし重川を除く笛吹川流域の大部分の河川砂はきわめてまとまりが良好で単独のクラスターを形成している。したがってI～III群の瓦試料は主として釜無川と荒川流域河川砂との類似性が高いといえる。IV群（Nos. 1, 10）、V群（Nos. 5, 9, 11, 12, 15）は同一のクラスターを形成しているが、河川砂試料との直接的な融合は見られない。VI群のNo15は、荒川支流貫川の河川砂と類似性を示す。

第④図は、一宮町甲斐国分寺遺跡、甲府市川田遺跡・上土器遺跡、および敷島町天狗沢遺跡での出土瓦と比較した樹形図である。本遺跡の瓦は、甲斐国分寺・川田・上土器遺跡の瓦とは類似性が低い。天狗沢遺跡とは前の3遺跡よりも類似性が若干あるものの個々に類似性がきわめて高い試料があるわけではない。また本遺跡出土瓦の個体間の類似性が他遺跡ほど高くないことから、瓦胎土が多様性に富むことが本遺跡の特徴としてあげられる。

### 6. 産地の推定

折れ線グラフによる分類とクラスター分析での分類とが比較的対応することが分かる。なお塩川流域は複雑な地質にもかかわらず河川砂の分析例が須玉町郷藏地遺跡より下流に限られている。これより上流の塩川の河川砂は、周辺に分布する花崗岩類・安山岩・デイサイト・泥岩・砂岩などから主に構成されている。

甲府盆地でのデイサイト分布の中心は黒富士火山を中心とする塩川・荒川地域である。したがってデイサイトがふつうに含まれるII～VI群のNos. 1, 5, 9, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 19は、塩川・荒川地域との関連性が強いと推定される。また第④図において本遺跡瓦は、荒川地域段丘堆積物を原材料として使用していた可能性が指摘される天狗沢遺跡瓦と類似性が示されている。IV・V群は、直接塩川・荒川の河川砂とクラスターが融合しているわけではないが、他地域と比較するとより塩川・荒川地域と類似性があると推定される。またVI群（No15）は荒川河川砂と類似性が高いことから、荒川地域が産地に推定されるが、塩川上流域の可能性も考えられる。隣接した塩川・荒川地域のなかでさらに産地を限定するのは現段階では困難であるが、IV～VI群の瓦は在地的のみなせる。

I・II・III群の瓦試料は、第③図において釜無川および荒川地域の河川砂と類似性が高いことから、釜無川・荒川流域を中心に塩川上流域を含めて産地に推定される。なお本遺跡は釜無川・荒川地域と隣接しているため、これらの瓦の移動距離をあまり大きく推定しなくてもよい。

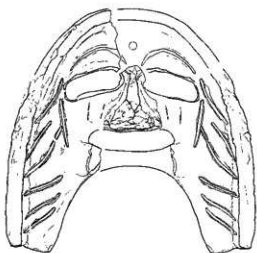
### 8. まとめ

本遺跡出土瓦を岩石学的手法で分析した岩石組成に基づき折れ線グラフ・クラスター分析によって分類した。その結果IV～VI群の瓦は塩川・荒川地域に、I～III群の瓦は釜無川・荒川・塩川地域に産地が推定された。また他遺跡出土瓦と比較して胎土の岩石組成の多様性が認められた。これは周辺地質の複雑さからくる原料の多様性によるものか、あるいは複数の異なる産地から供給されたことによるものかまだ明らかでない。今後、遺跡周辺特に塩川流域の地質データの充実により産地の精度を向上させ、考古学的事実をふまえ産地と本遺跡との関係について検討していく必要がある。

山梨県韮崎市

# 宮ノ前第2遺跡 北堂地遺跡

果営園場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



**1991**

韮崎市教育委員会  
峡北土地改良事務所

## 序 文

韮崎市は、宮ノ前遺跡の調査をはじめ近年県営圃場整備事業等の大規模開発に伴い、数多くの遺跡が発掘調査され貴重な文化財が発見されています。この度発刊された本報告書は、そのような貴重な発見が相次ぐ大規模開発の一端として平成2年度県営圃場事業に伴い発掘調査された、宮ノ前第2遺跡・北堂地遺跡の報告であります。

宮ノ前第2遺跡は平成元年～2年に調査された宮ノ前遺跡の北側に位置し、寺院跡と目される遺構の発見は、古代の集落と寺院のかかわりを知るうえで貴重な意味を持つものと思われます。また、北堂地遺跡から発見された中世の水溜遺構は、戦国期に当該地域に居館を構えた土豪層の存在をうかがわせています。各遺跡から出土した遺物は当時の生活用品である土器が主体となっており、大切な資料を得ることができました。これらの資料を文化財として、永く後世に伝えて行きたいと思います。本報告書が我々の先人の生活と歴史をときあかすための手助けになればと願っております。


最後に、遺跡の発掘調査並びに報告書作成に伴い、多大なる御理解と御協力を賜った関係諸機関及び関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成3年3月31日

韮崎市教育委員会

教育長 功 刀 幸 丸

# 例 言

- 1 本書は、県営圃場整備事業に伴う宮ノ前第2遺跡・北堂地遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、峡北土地改良事務所負担金、文化庁・山梨県の補助金を受け、斐崎市教育委員会が実施した。
- 3 本報告書の作成並びに整理作業は、斐崎市教育委員会社会教育課が行い、山下孝司が担当した。
- 4 出土瓦の胎土分析は山梨文化財研究所の河西学氏による。
- 5 凡 例
  - ① 遺構の番号は発掘調査現場において付けたものである。
  - ② 縮尺は各挿図ごとに示した。挿図中のドットは焼土をあらわす。
  - ③ 遺構断面図の水糸標高(m)は数字で示した。
  - ④ 挿図中の穴等の数字は床面及び確認面からの深さを表す。
  - ⑤ 挿図断面図の  は石をあらわす。
  - ⑥ 歴史時代土器断面、白めきは土師器、黒は須恵器、網点は陶器をあらわす。
  - ⑦ 写真図版中遺物に付けられた番号は、実測図の番号と対応する。
- 6 発掘調査及び報告書作成に当たり、次の方々から御指導・御助言・御協力をいただいた。厚く御礼を申し上げる次第である。(敬称略)  
井上和人(文化庁)、坂本美夫・長沢宏昌(山梨県教育庁文化課)、末木健・新津健・保坂康夫(山梨県埋蔵文化財センター)、椎名慎太郎・十菱駿武(山梨学院大学)、萩原三雄・平野修・榎原功一(帝京大学山梨文化財研究所)、山路恭之助(須玉町教育委員会)、雨宮正樹(高根町教育委員会)、桜井真貴(長坂町教育委員会)、清水博(楡形町教育委員会)、畑大介(甲斐丘陵考古学研究会)、原正人(山梨郷土研究会)、志村富三(斐崎市文化財審議会委員)、峡北土地改良事務所、斐崎市圃場整備室、斐崎市遺跡調査会、帝京大学山梨文化財研究会、シン航空写真KK 外
- 7 発掘調査・整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、斐崎市教育委員会において保管している。

## 調 査 組 織

- 1 調査主体 斐崎市教育委員会
- 2 調査担当 山下孝司(斐崎市教育委員会社会教育課)
- 3 調査参加者  
岡本嘉一・小田切絹江・小沢高恵・小沢千代子・小沢治代・岡本保枝・長島昌子・小沢久江・志村冴子・小沢宮野・小沢栄子・新藤すみ江・五味ゆき子・坂本恒子・深沢真知子・石原ひろみ・小野初美・功刀まゆみ・三井福江・保坂かつよ・秋山半蔵・石原復治・石原かよ・秋山松義・須賀富雄・内藤富重・中山光行・小室国春・内藤武広・岡田富雄・岡田順子・植松富子・内藤ハツエ・内藤小夜子・保坂実香子・内藤正栄・内藤治男・内藤梅代・秋山なお子・佐藤民雄・望月高
- 4 事務局 斐崎市教育委員会社会教育課  
教育長 功刀幸丸、課長 中島尚武、課長補佐 真壁静夫、係長 横森淳彦・雨宮智子

# 目 次

序	文
例	言
目	次
挿図・表目次	
写真図版目次	

## [ 総 説 ]

I 調査に至る経緯と概要	1
II 遺跡の立地と環境	1
1 遺跡の立地	
2 周辺の遺跡	
III 遺跡の地相概観	2
IV 調査の方法	5

## [ 各 説 ]

I 宮ノ前第2遺跡	6
II 北堂地遺跡	59

## [ 総 括 ]

ま と め	82
-------	----

## [ 附 編 ]

宮ノ前第2遺跡出土瓦の胎土分析	84
-----------------	----

写 真 図 版

## 挿 図 ・ 表 目 次

<p>第1図 宮ノ前第2遺跡①・北堂地遺跡② と周辺遺跡 ..... 3</p> <p>第2図 宮ノ前第2遺跡位置図 ..... 4</p> <p>第3図 北堂地遺跡位置図 ..... 5</p> <p>第4図 宮ノ前第2遺跡全体図 ..... 8</p> <p>第5図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図 ... 9</p> <p>第6図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図 ... 10</p> <p>第7図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図 ... 11</p> <p>第8図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図 ... 12</p> <p>第9図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図 ... 13</p> <p>第10図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図 ... 14</p> <p>第11図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図 ... 15</p> <p>第12図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図 ... 16</p> <p>第13図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図 ... 17</p> <p>第14図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図 ... 18</p> <p>第15図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図 ... 19</p> <p>第16図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 30</p> <p>第17図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 31</p> <p>第18図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 32</p> <p>第19図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 33</p> <p>第20図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 34</p> <p>第21図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 35</p> <p>第22図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 36</p> <p>第23図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 37</p> <p>第24図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 38</p> <p>第25図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 39</p> <p>第26図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 40</p> <p>第27図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 41</p> <p>第28図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 42</p> <p>第29図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 43</p> <p>第30図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 44</p> <p>第31図 宮ノ前第2遺跡出土瓦 ..... 47</p> <p>第32図 宮ノ前第2遺跡出土瓦 ..... 48</p> <p>第33図 宮ノ前第2遺跡出土瓦 ..... 49</p>	<p>第34図 宮ノ前第2遺跡出土瓦 ..... 50</p> <p>第35図 宮ノ前第2遺跡出土瓦 ..... 51</p> <p>第36図 宮ノ前第2遺跡出土瓦 ..... 52</p> <p>第37図 宮ノ前第2遺跡出土瓦 ..... 53</p> <p>第38図 宮ノ前第2遺跡出土瓦 ..... 54</p> <p>第39図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 55</p> <p>第40図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 56</p> <p>第41図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 57</p> <p>第42図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 ..... 58</p> <p>第43図 北堂地遺跡全体図 ..... 61</p> <p>第44図 北堂地遺跡遺構平・断面図 ..... 62</p> <p>第45図 北堂地遺跡遺構平・断面図 ..... 63</p> <p>第46図 北堂地遺跡遺構平・断面図 ..... 64</p> <p>第47図 北堂地遺跡遺構平・断面図 ..... 65</p> <p>第48図 北堂地遺跡遺構平・断面図 ..... 66</p> <p>第49図 北堂地遺跡遺構平・断面図 ..... 67</p> <p>第50図 北堂地遺跡遺構平面図 ..... 68</p> <p>第51図 北堂地遺跡遺構平・断面図 ..... 69</p> <p>第52図 北堂地遺跡遺構平・断面図 ..... 70</p> <p>第53図 北堂地遺跡出土遺物 ..... 75</p> <p>第54図 北堂地遺跡出土遺物 ..... 76</p> <p>第55図 北堂地遺跡出土遺物 ..... 77</p> <p>第56図 北堂地遺跡出土遺物 ..... 78</p> <p>第57図 北堂地遺跡出土遺物 ..... 79</p> <p>第58図 北堂地遺跡出土遺物 ..... 80</p> <p>第59図 北堂地遺跡出土遺物 ..... 81</p> <p>第60図 4号掘立柱建物址建物模式図 ..... 82</p> <p>第1表 試料表 ..... 84</p> <p>第2表 宮ノ前第2遺跡出土瓦の岩石鉱物 ..... 85</p> <p>第①図 宮ノ前第2遺跡出土瓦の 岩石鉱物組成 ..... 86</p> <p>第②図 岩石組成折れ線グラフ ..... 87</p> <p>第③図 河川砂と瓦の樹形図 ..... 89</p> <p>第④図 県内出土瓦の樹形図 ..... 89</p>
---	---



## 写真図版目次

- 図版1 宮ノ前第2遺跡 遺跡遠景、1号住居址、2号住居址
- 図版2 宮ノ前第2遺跡 3号住居址、4号住居址、5号住居址
- 図版3 宮ノ前第2遺跡 6号住居址、7号住居址・遺物出土状態
- 図版4 宮ノ前第2遺跡 8号住居址、9号住居址、10号住居址
- 図版5 宮ノ前第2遺跡 1号掘立柱建物址、2号掘立柱建物址、3号堀立柱建物址
- 図版6 宮ノ前第2遺跡 4号掘立柱建物址及び遺跡近景、4号掘立柱建物址・身舎部分・柱根
- 図版7 宮ノ前第2遺跡 1号土塼、2号土塼、1号溝状遺構、3号溝状遺構、4号溝状遺構、8号溝状遺構、9号溝状遺構、10号溝状遺構
- 図版8 宮ノ前第2遺跡 1号住居址出土遺物、2号住居址出土遺物
- 図版9 宮ノ前第2遺跡 3号住居址出土遺物、4号住居址出土遺物、5号住居址出土遺物、6号住居址出土遺物
- 図版10 宮ノ前第2遺跡 7号住居址出土遺物、10号住居址出土遺物、1号竪穴状遺構出土遺物、1号土塼出土遺物、4号土塼出土遺物、3号溝状遺物出土遺物、9号溝状遺構出土遺物
- 図版11 宮ノ前第2遺跡 遺構外出土遺物、丸瓦、平瓦
- 図版12 宮ノ前第2遺跡 平瓦
- 図版13 宮ノ前第2遺跡 鬼瓦、塼、瓦塔、土製品
- 図版14 宮ノ前第2遺跡 胎土分析をした瓦試料
- 図版15 北堂地遺跡 遺跡遠景、A区2号住居址、A区3号住居址
- 図版16 北堂地遺跡 B区1号住居址、A区1号住居址、A区4・5号住居址
- 図版17 北堂地遺跡 B区2号住居址、B区3号住居址、遺跡発掘風景
- 図版18 北堂地遺跡 A区水溜状遺構、B区5号地下式土塼内部、B区1号土塼、B区1号溝状遺構
- 図版19 北堂地遺跡 A区2号住居址出土遺物、A区3号住居址出土遺物、B区1号住居址出土遺物、A区4号住居址出土遺物、A区1号水溜状遺構出土遺物
- 図版20 北堂地遺跡 B区3号地下式土塼出土遺物、B区5号地下式土塼出土遺物、B区1号溝状遺構出土遺物

# [ 総 説 ]

## I 調査に至る経緯と概要

平成2年度県営圃場整備事業実施にともない、本市教育委員会では葦崎市圃場整備室から依頼を受け、事業予定地区を平成元年度に踏査及び試掘を行い、遺跡の存在を確認した。その結果をもとに、峡北土地改良事務所・山梨県教育庁文化課・市教育委員会で協議を行い、宮ノ前第2遺跡と北堂地遺跡について、圃場整備事業に先立って延面積約5,000㎡を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

発掘調査は、宮ノ前遺跡を平成2年6月末より開始し10月半ばに終了し、続いて北堂地遺跡に取り掛かり12月初旬に終了した。引き続き、遺物等の整理作業を行い、報告書作成までの作業が完了したのは、平成3年3月であった。

## II 遺跡の立地と環境

### 1 遺跡の立地

宮ノ前第2遺跡は、山梨県葦崎市藤井町駒井字宮の前地内に、北堂地遺跡は葦崎市円野町上円井字燕田地内に所在した。宮ノ前第2遺跡は同小字地内に所在する宮ノ前遺跡の継ぎに調査された遺跡であり第2を遺跡名とした。北堂地遺跡は昭和46年度に分布調査された時に発見され台帳に載った遺跡である。

葦崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的にはほぼ山地・台地・平地の三地域に分けられる。

宮ノ前第2遺跡の所在した塩川右岸の氾濫原は、塩川の侵食によって造られた茅が岳山麓の断崖と、七里岩台地東側の片山とに挟まれた低地性の平地となっている。この平地は通称藤井平と呼ばれ、地内を貫流する黒沢川・藤井堰により水利がよく、肥沃で豊かな水田地帯が広がっている。また、『甲斐国志』には「穴山ヨリ南小田川、駒井、坂井、中條、下條、並崎等ノ数村ヲ里人藤井ノ庄五千石ト云」と記載があり、古くから穀倉地帯であったことが窺える。当該地帯は一見平坦地の様相を呈してはいるが、地形を観察してみると、度重なる氾濫によって自然堤防状の微高地が所々に発達していることがわかる。藤井平は、このような微高上に遺跡が点在しており、宮ノ前第2遺跡は標高約395mの水田下に発見された。

葦崎市の西部は、南アルプスの連峰が連なり、その前衛に階段状に山々が屹立している。これらの山々から大小の溪流が流れ出しそれぞれ扇状地をつくりだしている。扇状地の末端は南東流する釜無川によって侵食され急崖となり河岸段丘を形成している。段丘上は山麓の台地と緩傾斜の平坦面に分かれ、台地上は駿信往還が通る交通の要路となっており、中世には刃境武士団武川

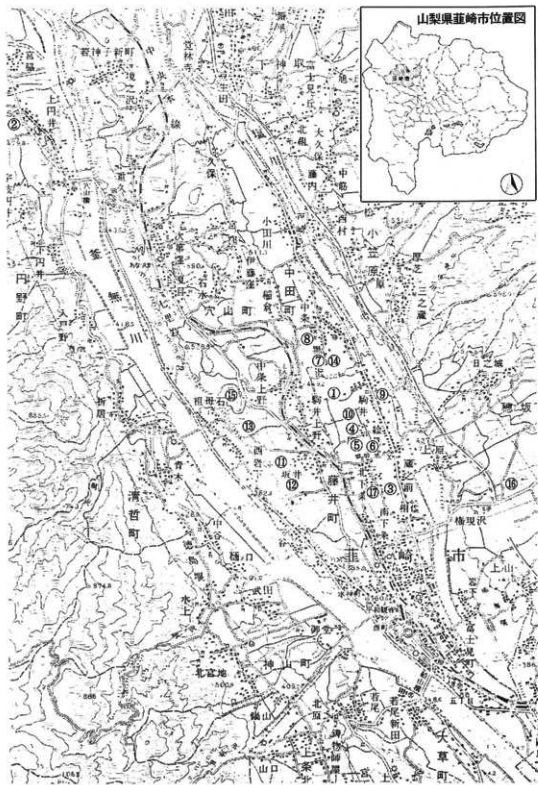
衆の拠点でもあった。北堂地遺跡はこのような釜無川右岸河岸段丘の標高約478m相下に発見された。

## 2 周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代区分	備考
①	宮ノ前第2	奈良・平安	
②	北堂地	縄文・平安・中世・近世	
③	下横屋	弥生・平安	平成元年度 韭崎市教育委員会調査
④	北後田	縄文・平安	平成元年度 韭崎市教育委員会調査
⑤	後田	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	昭和63年度 韭崎市教育委員会調査
⑥	堂の前	弥生・奈良・平安	昭和61年度 韭崎市教育委員会調査
⑦	金山	中世～近世	昭和60年度 韭崎市教育委員会調査
⑧	中田小学校	縄文・弥生・奈良・平安	昭和59年度 韭崎市教育委員会調査
⑨	駒井	平安	昭和60年度 山梨県埋蔵文化財センター調査
⑩	宮ノ前	縄文・弥生・奈良・平安	平成元年～平成2年 韭崎市遺跡調査会調査
⑪	坂井	縄文前期～晩期	志村 滝蔵「坂井」 地方書院 昭和40年
⑫	坂井南	古墳前期・平安	昭和60年度 韭崎市教育委員会第三次調査
⑬	天神前	縄文	
⑭	前田	平安	昭和62年度 韭崎市教育委員会調査
⑮	新府城跡	中世	国指定史跡
⑯	女夫石	縄文	
⑰	北下条	弥生～平安	昭和57年度 韭崎市教育委員会調査

## III 遺跡の地相概観

宮ノ前第2遺跡は、宮ノ前遺跡から300m程北側の、南に緩やかな傾斜をもつ日当りの良い微高地で、東方に集落が形成されている。遺跡の東側には、駒井の集落の起こりとなったとも言われる駒ヶ池という清泉がある。西側は傾斜し低地となっている。調査区域内において土層を観察



第1図 宮ノ前第2遺跡①・北堂地遺跡②と周辺遺跡 (1:50,000)



第2圖 宮ノ前第2遺跡位置圖 (1:4,000)



第3図 北堂地遺跡位置図 (1:4,000)

すると、耕作土・水田床土の下は一律ではなく、暗黄褐色土～褐色系土・暗褐色土等が堆積しており、遺構はこれからの土層中に掘り込まれていた。

北堂地遺跡は、西から東へ流れる小沢と段丘崖に挟まれた舌状台地のほぼ先端部分にあり、崖下には国道を挟んで旧国道沿いに上円井の街村がある。まわりは耕地となっているが、北西側には宅地域が形成されている。調査区域内は耕作土の下はローム層となり、掘り込まれた遺構の確認はローム層面でおこなった。

#### IV 調査の方法

両遺跡とも地形を考慮し任意に10m方眼を設定し、北堂地遺跡は便宜上A区・B区に分けて調査を行った。耕作土・表土を排除した後、鍬鏝等により精査を行い、遺構確認の後、掘り下げを行った。遺物は出るが遺構の確認困難な箇所はグリットの掘り下げを行い調査を実施した。

## [ 各 説 ]

### I 宮ノ前第2遺跡

#### 1 遺 構 (第4図)

調査の結果発見された遺構は、奈良・平安時代の堅穴住居址10軒、掘立柱建物址4軒、堅穴状遺構1棟の外、土壇3基、溝状遺構11条、その他の土抗群・ピットとなっている。以下に堅穴住居址からみていこう。

##### <1号住居址> (第5図)

調査区域ほぼ中央部に位置する。平面形態は隅円方形を呈する。規模は東西約2.6m、南北約2.8mを測る。壁はやや外傾し立ち上がり、壁高は5~10cm前後を測る。床面はほぼ平坦で、壁際に周溝がめぐる。柱穴は確認されなかった。カマドは東壁西半部に構築され、規模は長さ約1.1m、幅約80cmで、石及び瓦の破片を用い作られていたと思われる。

##### <2号住居址> (第5図)

調査区域中央西側に位置する。平面形はやや不整の方形を呈する。規模は東西約3m、南北約3.1mを測る。壁高は15~20cm前後を測る。壁はやや外傾し立ち上がる。床面には窪みがみられる。柱穴は確認されなかった。カマドは東壁南半部に構築され、規模は長さ約1.2m、幅約85cmで、石及び瓦の破片を用い作られていたと思われる。

##### <3号住居址> (第5図)

調査区域中央東側に位置する。2号溝状遺構によって東西に分断されている。平面形は不整円形を呈する。規模は東西2.6m、南北約2.7mを測る。壁高は10cm前後を測る。壁はやや外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦。柱穴は確認されなかった。カマドは東壁中央部に構築され、規模は長さ約90cm、幅約75cmで、石及び瓦の破片を用い作られていたと思われる。

##### <4号住居址> (第6図)

調査区域ほぼ中央部に位置する。南半分は1号住居址によって切られ遺存していない。平面形は隅円長方形を呈すると思われる。規模は東西約3.8mを測る。壁高は高いところで約15cmを測る。壁は外傾して立ち上がるが、削平及び攪乱により遺存状態は悪い。床面はほぼ平坦。柱穴はない。カマドは東壁に構築されていたものと思われるが、明瞭ではなかった。

##### <5号住居址> (第6図)

調査区域中央東端に位置する。平面形は方形を呈する。規模は東西約3.6m、南北約3.5mを測る。南西隅は7号住居址に重なっている。壁高は10cm前後を測る。壁は外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦。柱穴は確認されなかった。カマドは南東隅に構築され、規模は長さ約1.3m、幅約90cmで、石を用いて作られている。内部に嚢を支えるための支脚らしき石があった。瓦の破片も出土しているが、構築に用いられたものであろうか。

#### <6号住居址> (第6図)

調査区域北端中央に位置する。北半分は調査区域外で完掘できなかった。東壁は4号溝状遺構によって削平されている。規模は東西で約3.4mを測る。壁高は20cm前後を測る。壁は外傾し立ち上がる。床面は平坦。柱穴は確認されなかった。カマドは東壁南半部に構築され、規模は長さ約1.3m、幅約70cmで石を用い作られている。

#### <7号住居址> (第7図)

調査区域中央東側に位置する。平面形は隅円方形を呈する。規模は東西約4m、南北約3.8mを測る。北東隅は5号住居址に切られている。壁高は10~15cmを測る。壁はやや外傾して立ち上がる。床面は堅く踏み締めた面があまりはっきりしなかったが、ほぼ平坦。柱穴は検出されなかった。カマドは北壁西側寄りに構築され、長さ約90cm、幅約70cmで、石及び瓦の破片を用い作られていたと思われる。

#### <8号住居址> (第7図)

調査区域北西側に位置する。南半分は耕地化によって遺存していない。北東側の9号住居址を切っている。平面形はほぼ方形を呈すると思われる。規模は東西で約4.3mを測る。床面は平坦。柱穴は確認されない。削平等により浅い壁穴となっており、壁高は5cm前後を測る。カマドは北壁中央やや西寄りに構築され、長さ約1m、幅約75cmで、石及び瓦の破片を用い作られていたと思われる。

#### <9号住居址> (第7図)

調査区域北西側に位置する。南半分は耕地化によって遺存していない。西側部分は8号住居址によって切られている。平面形は隅円長方形を呈すると思われる。規模は東西で約6.4mを測る。削平等により浅い壁穴となっており、壁高は5cm前後を測る。壁はやや外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦。柱穴らしき穴が2箇所に検出された。カマドは東壁に構築されていたと思われ、焼土が認められた。

#### <10号住居址> (第7図)

調査区域南半部東端に位置する。平面形は不整形長方形を呈する。規模は東西約2.4m、南北約2.9mを測る。壁高は10cm前後を測る。壁はやや外傾し立ち上がる。床面は平坦。柱穴は確認されなかった。カマドは検出されなかった。

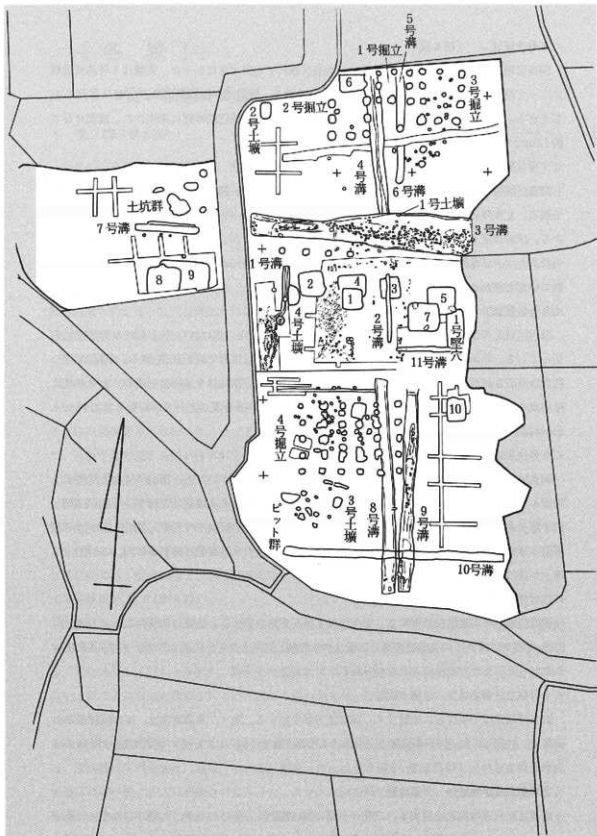
#### <1号掘立柱建物址> (第8図)

調査区域北端中央付近に位置する。ほぼ正方形を呈する二間×二間の建物址。柱の直径は25cm前後で、柱間は1.8~2mで不揃い。西側は4号溝状遺構に切られている。柱穴の掘り形はほぼ方形を呈する。

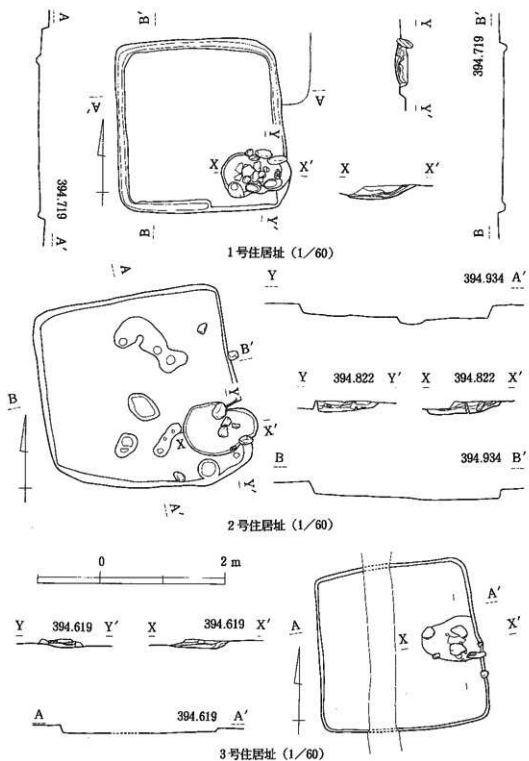
#### <2号掘立柱建物址> (第8図)

調査区域北辺中央に位置する。二間×三間の棚柱建物址と思われるが、北側3本の柱穴は確認されなかった。一方が開いた二間×二間の建物址とも考えられる。柱間は1.8~2mであろうか。

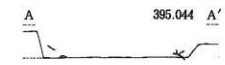
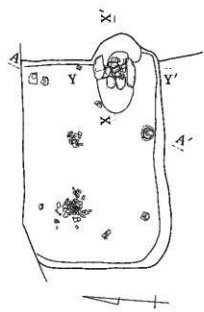
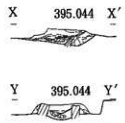
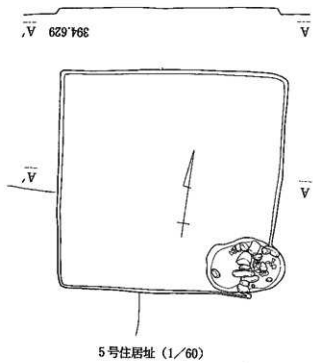
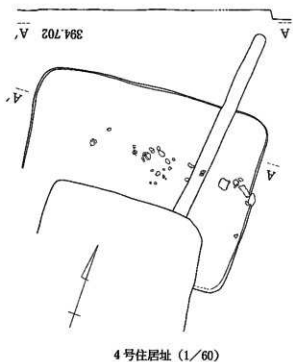




第4图 宫ノ前第2遺跡全体图 (1:500)



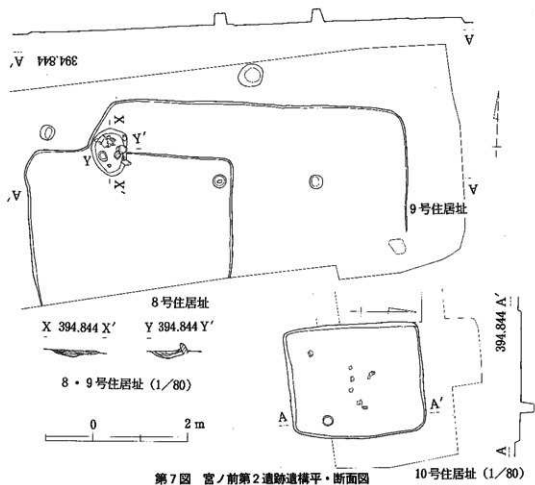
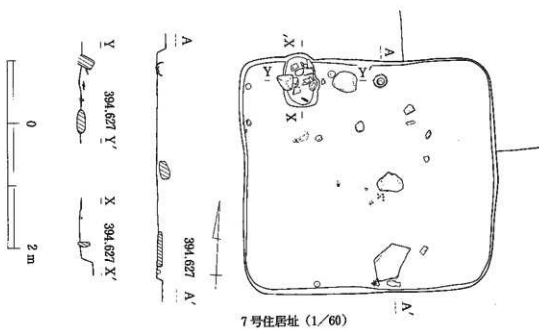
第5图 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図



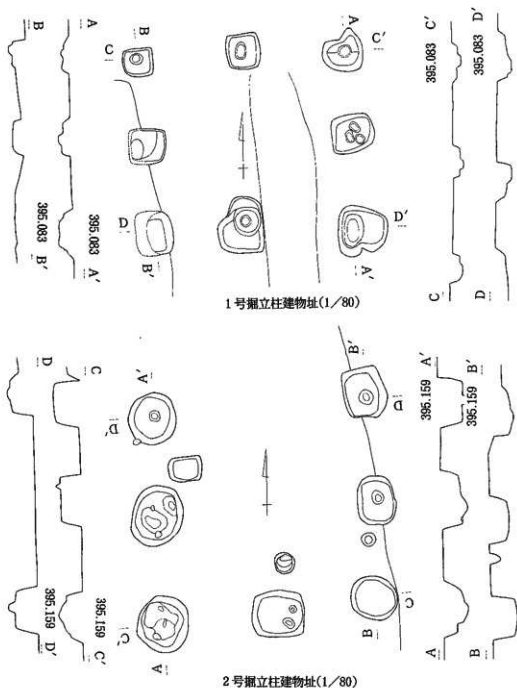
6号住居址 (1/60)



第6図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図



第7図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図

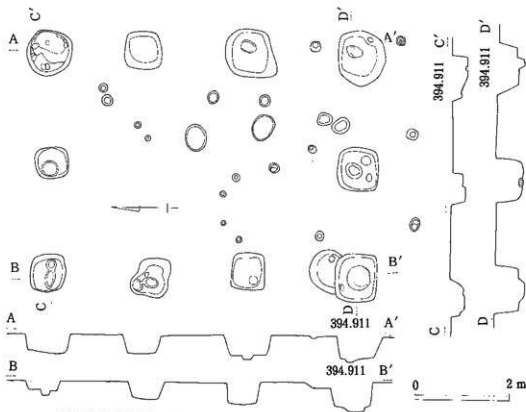


第8図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図

柱穴の掘り形は円形乃至隅円方形を呈する。

〈3号掘立柱建物址〉 (第9図)

調査区域東端に位置する。長方形の二間×三間の側柱建物址。柱間は東西方向が2m位、南北方向が1.8m位となっている。柱穴の掘り形は隅円方形を呈する。



3号掘立柱建物址(1/80)

第9図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図

〈4号掘立柱建物址〉 (第10図)

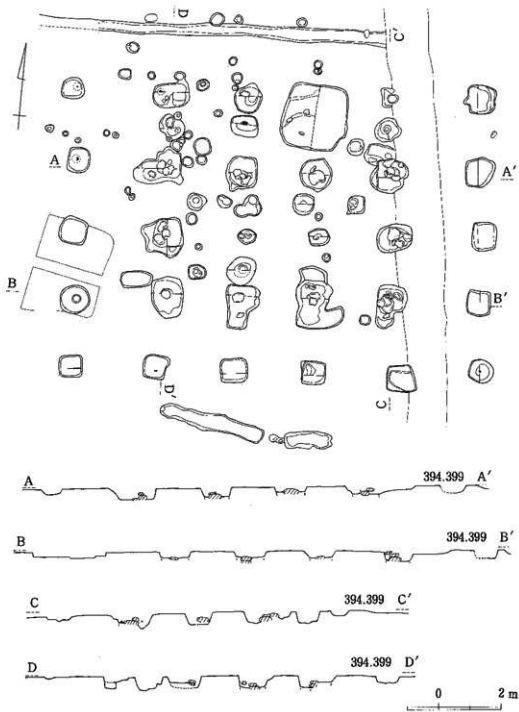
調査区域南半部に位置する。東西方向に長い四間×五間の総柱建物址。規模は東西約13m南北約9mで大型の建物址となっている。二間×三間の身舎(もや)の側部分は、柱を受ける部分に偏平な石を用いてあり、堅固につくられており、中央部分には束柱を据えたと思われる浅い柱穴が検出された。四間×五間の側部分には石は用いられておらず、身舎(もや)の柱穴程深くはなかった。

〈1号竅穴状遺構〉 (第11図)

調査区域中央東端に位置する。5号住居址の南側に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。南北に長い長方形を呈するが、南端は11号溝状遺構に切れられ遺存していない。規模は東西約2.2m、南北は遺存部分で約5mを測る。壁はやや外傾し立ち上がり、高さ10cm前後を測る。床面はほぼ平坦である。本遺構の性格は不明。

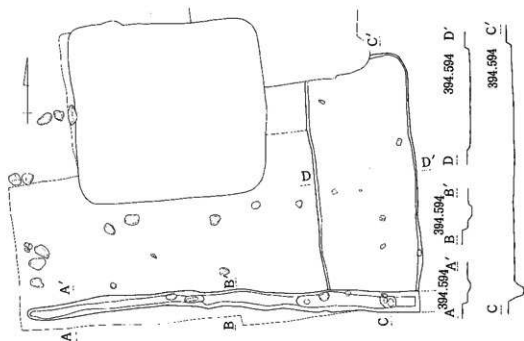
〈1号土壌〉 (写真図版参照)

3号溝状遺構の中央北側に検出。径40cm程の穴で、東西に並んで板切れが2枚あり、それぞれに古銭が3枚ずつのせてあった。人間のものと思われる歯が弧状に出土しており、墓塚のたぐいであろうか。



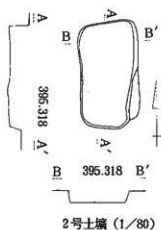
4号掘立柱建物址(1/120)

第10図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図

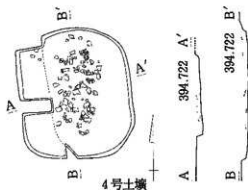


11号溝状遺構(1/80)

1号堅穴状遺構(1/80)



2号土城(1/80)



4号土城



第11図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図

<2号土城> (第11図)

調査区域北端に位置する。平面形は不整の隅円長方形を呈する。規模は東西約1.3m、南北約2.3mで、確認面からの深さ25~40cm前後を測る。

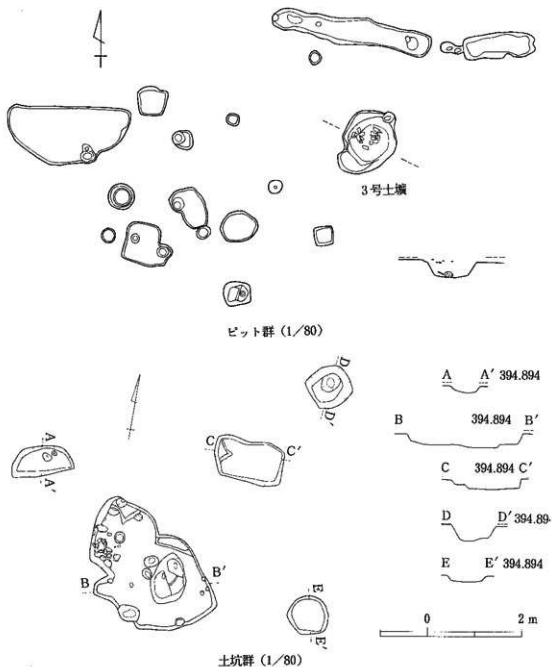
<3号土城> (第12図)

調査区域南側に位置する。径1mで、確認面からの深さ約35cmを測る。

<4号土城> (第11図)

調査区域中央に位置する。平面形は小判形に近い形態を呈し、東西約1.7m、南北約2.8mの規模を測る。確認面からの深さは15cm前後を測る。発掘当初は瓦・土器等が集中して出土したため



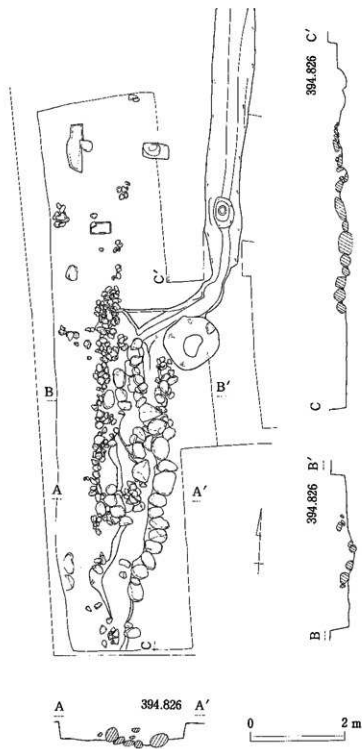


第12図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図

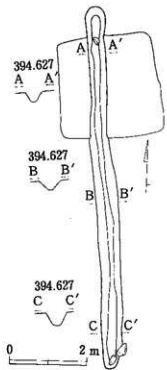
に、土器捨場として扱ったが、1号土坑と同様に板切れ上に古銭がのって出土したため本書では4号土坑として報告した。

〈ピット群・土坑群〉 (第12図)

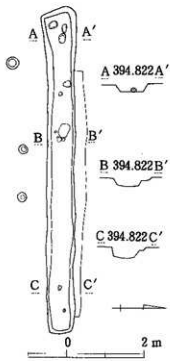
ピット群は調査区域南側、土坑群は調査区域北西辺に位置する。小穴ないし坑が検出されたが、柱穴のように整然と並ばず群として扱っておいた。



1号溝状遺構 (1/80)

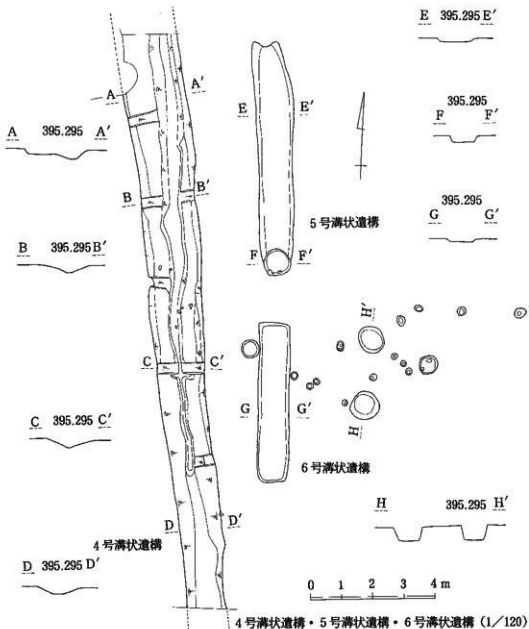


2号溝状遺構 (1/100)



7号溝状遺構 (1/100)

第13図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図



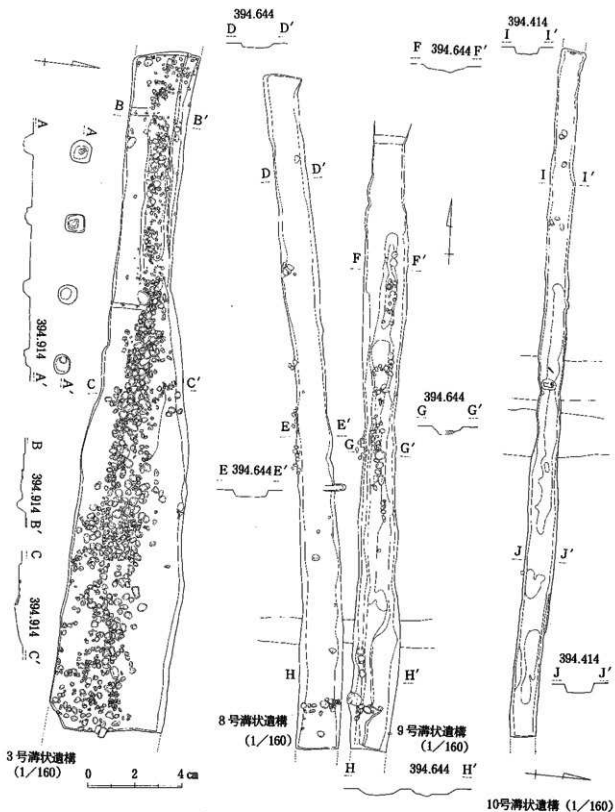
第14図 宮ノ前第2遺跡遺構平・断面図

<1号溝状遺構> (第13図)

調査区域中央西側に位置する。北から南へ流れをもつ。鉤の手に曲がった溝で南半分は壁に石を用いてある。

<2号溝状遺構> (第13図)

調査区域中央東寄りに位置する。3号住居址を切って構築される。何かの仕切り溝出であろうか。



<3号溝状遺構> (第15図)

調査区域北半部に位置する。西から東に流れをもつ。西側3分の1程は北側に一段深い小さな溝を有している。溝の中には石が多く入り込んでいた。瓦の出土もあった。本溝の西半分には1m程南側に離れて柱列が検出されている。柱間はほぼ9尺(2.7m)の等間隔である。塀のような施設があったのだろうか。

<4号溝状遺構> (第14図)

調査区域北半部に位置する。北から南に流れをもつ。

<5号溝状遺構> (第14図)

調査区域北半部に位置する。北から南に流れをもつ浅い溝。

<6号溝状遺構> (第14図)

調査区域北半部に位置する。北から南に流れをもつ浅い溝。5号溝状遺構と関係するか。

<7号溝状遺構> (第13図)

調査区域北西部に位置する。東西方向に横たわる溝。

<8号溝状遺構> (第15図)

調査区域南半部に位置する。北から南に流れをもつ浅い溝。4号掘立柱建物址の身舎部分を切っている。

<9号溝状遺構> (第15図)

調査区域南半部、8号溝状遺構の東に位置する。北から南に流れをもつ。

<10号溝状遺構> (第15図)

調査区域南端に位置する。東西に横たわる、断面「コ」の字状の溝。

<11号溝状遺構> (第11図)

調査区域中央東側に位置する。東西にのびる溝。2号溝状遺構とともに何かの仕切りであろうか。

## 2 遺物

調査の結果出土した遺物は、奈良・平安時代のものが主体となっている。遺構から出土した遺物を中心に紹介し、一覧表でみていこう。なお、古銭は説明をはおいているものもある。

<1号住居址出土遺物> (第16図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量	胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	土師器	蓋	-, -, -	密	にぶい藍色 一部黒変	ロクロ水挽き 1/2残
2	土師器	坏	4.2, 11.2, 4.2	微砂粒子を含む	橙色 口縁部・底部 一部黒変	ロクロ水挽き 外面-体部下半へう削り 底部回転糸切り後外周へう削り 2/3欠損
3	土師器	坏	4.25, 12.0, 5.5	微砂粒子を含む	黒色 にぶい黄褐色	ロクロ水挽き 底部回転糸切り痕 内面-黒色土器 一部欠損

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
4	土師器	环	4.4, 11.7, 4.8		微砂粒子を含む	明赤褐色	ロクロ水挽き 外面-体部下半へう割り 底部回転糸切り後外周へう割り 口縁部煤付着 一部欠損
5	土師器	环	4.2, 11.7, 4.0		赤色粒子を含む	にぶい橙色 にぶい黄褐色	ロクロ水挽き 外面-体部下半へう割り 底部回転糸切り後外周へう割り 口縁部一部欠損
6	土師器	环	4.6, 14.7, 5.8		砂粒を含む	黒色 灰黄色	ロクロ水挽き 内面-黒色土器 底部回転糸切り痕 2/5残
7	土師器	皿	2.7, 12.2, 4.0		砂粒 白色粒子を含む	にぶい褐色 明褐色	ロクロ水挽き 外面-体部下半へう割り 内面-口縁部煤付着 墨書の痕跡あり(不明) 口縁部一部欠損
8	土師器	皿	2.4, 11.6, 5.0		細かい黒色粒 子を含む	黒色 にぶい黄褐色	ロクロ水挽き 内面-黒色土器 底部回転糸切り痕 完形
9	土師器	皿	2.5, 13.0, 9.4		微砂粒子を含む 赤褐色粒子を 含む	にぶい赤褐色	ロクロ水挽き 底部切り離し後回転へう割り 胴部・底部一部欠損
10	土師器	皿	2.4, 6.2, 3.8		赤色粒子を含む	橙褐色	ロクロ水挽き 外面-体部下半へう割り 底部墨書あり 口縁部一部欠損
11	土師器	皿	2.4, 13.4, 5.1		砂粒を含む 赤色粒子を含む	にぶい橙色	ロクロ水挽き 内面-螺旋状噴文あり 底部回転へう割り 2/5残
12	土師器	鉢	-, -, -		微砂粒子を含む	黒色	黒色研磨土器 底部破片

<2号住居址出土遺物> (第17・18図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	須恵器	环	-, 12.6, -		白・黒色粒子 を含む	灰色	ロクロ水挽き 自然輪がみられる 底部・胴部一部欠損
2	須恵器	盃	-, -, 8.0		白色粒子を含む	褐灰色 褐色	付高台 底部破片
3	土師器	环	4.5, 11.9, 4.0		細かい白・赤 色粒子を含む	褐色 (一部黒変)	ロクロ水挽き 外面-体部下半へう割り 墨書あり 煤付着 口縁部一部欠損
4	土師器	环	4.9, 12.3, 4.7		密 赤色粒子を含む	褐色 (一部黒変)	ロクロ水挽き 外面-体部下半へう割り 底部回転糸切り後外周へう割り 1/2残
5	土師器	环	4.6, 12.1, 3.6		密 赤色粒子を含む	にぶい橙色 (一部黒変)	ロクロ水挽き 外面-体部下半底部へう割り 墨書あり(不明) 煤付着 口縁部一部欠損
6	土師器	环	4.2, 12.2, 4.4		密 赤色粒子を含む	にぶい橙色 (一部黒変)	ロクロ水挽き 内面-一部剝離 煤付着 外面-体部下半へう割り 完形

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
7	土師器	坏	4.5, 12.2, 3.8		密赤色粒子を含む	にぶい褐色	ロクロ水挽き 外面-体部下半へう削りされるが、 磨滅により不鮮明 4/5残
8	土師器	皿	2.6, 12.3, 4.8		密赤色粒子を含む	にぶい褐色	ロクロ水挽き 外面-体部下半~底部へう削り 底部に糸切り痕がみられる 一部欠損
9	土師器	高台 付皿	3.0, 14.5, 6.0		砂粒を含む	灰黄褐色 浅黄褐色	ロクロ水挽き 付高台 褐色している、内面黒色土器か? 1/3残
10	土師器	皿(?)	3.1, 11.2, 4.3		密赤色粒子を含む	にぶい褐色	ロクロ水挽き 体部下半へう削り 1/3残
11	土師器	皿	2.9, 13.0, 4.4		密赤色粒子を含む	褐色 にぶい褐色	ロクロ水挽き 外面-体部下半~底部へう削り 2/5残
12	土師器	皿	2.7, 11.8, 3.8		粗い赤色粒子 砂粒を含む	明赤褐色	ロクロ水挽き 外面-体部下半~底部へう削り 内外面-一部剥離 完形
13	土師器	皿	2.8, 13.2, 3.0		赤色粒子を含む	赤褐色 明褐色	ロクロ水挽き 外面-体部下半~底部へう削り 内外面-一部剥離 完形
14	土師器	皿	2.8, 12.0, 4.8		赤色粒子 砂粒を含む	にぶい褐色 褐色 (一部黒変)	ロクロ水挽き 外面-体部下半~底部へう削り 底部墨書あり 内外面-一部剥離 口縁一部欠損
15	土師器	皿	2.4, 6.5, 4.2		砂粒を含む	明褐色 (一部黒変)	ロクロ水挽き 外面-体部下半~底部へう削り (磨滅によりやや不鮮明) 墨書あり 口縁一部僅付着 一部欠損
16	土師器	鉢	11.6, 24.7, 9.0		微妙粒及び赤 色粒子、金盞 母を含む	にぶい褐色	口縁部塊状で 内面-刷毛整形の後推で 外面-刷毛目痕が明瞭 3/5残
17	石器?						
18	土師器	置カ マド	- , 26.0, -				内外面-刷毛整形 破片

< 3号住居址出土遺物 > (第19図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	須臾器	高台 付壺	- , - , -		密白・黒色粒子 を含む	褐灰色	ロクロ水挽き 内面-自然釉あり 付高台 底部破片
2	土師器	壺	- , 16.6, -		密赤・白色粒子 を含む	淡褐色 (一部灰白色)	ロクロ水挽き 口縁部破片
3	土師器	壺	- , - , -		密赤・白色粒子 を含む	にぶい褐色 灰白色 (一部にぶい 褐色)	ロクロ水挽き 外面-回転へう削り 破片
4	土師器	壺	- , 16.8, -		密白・赤色粒子 を含む	にぶい褐色	ロクロ水挽き 破片

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
5	土師器	蓋?	—, 18.8, —		密赤色粒子を含む	にぶい橙色 褐色	ロクロ水挽き 破片
6	土師器	坏	4.4, 11.5, 3.0		赤色粒子を含む	にぶい橙色 (外面一部浅 黄褐色)	ロクロ水挽き 内面—略文あり(磨滅して不鮮明) 1/8残
7	須恵器	坏	4.0, 10.8, 4.6		白・黒色粒子 を含む	灰白色 (内面一部に ぶい橙色)	ロクロ水挽き 内面—放射状略文あり 1/4残
8	土師器	坏	—, 11.0, —		細かい赤色粒 子を含む	にぶい橙色 褐色	ロクロ水挽き 破片
9	土師器	坏	—, 11.8, —		細かい赤色粒 子を含む	褐色	ロクロ水挽き 内面—放射状略文あり 1/5残
10	土師器	坏	—, 11.5, —		細かい白・赤 色粒子を含む	にぶい橙色	ロクロ水挽き 口縁部に少々煤付着 口縁部1/4残
11	土師器	坏	3.8, 10.0, 4.4		精製	にぶい橙色 (一部にぶい 赤褐色)	ロクロ水挽き 外面—体部下半へラ削り (磨滅して不鮮明) 刻書 一部欠損
12	土師器	坏	4.2, 10.2, 5.2		赤色粒子を含 む	にぶい橙色 褐色	ロクロ水挽き 内面—放射状略文あり 外面—体部下半へラ削り 底部回転系切り後外周へラ削り 4/5残
13	土師器	皿	—, 14.4, —		白・赤色粒子 を含む	にぶい橙色 浅黄褐色	ロクロ水挽き 口縁部破片
14	土師器	甕?	—, —, 8.0		白・赤色粒子 を含む	にぶい橙色	ロクロ水挽き 外面—胴下部へラ削り(磨滅して 不鮮明)、底部回転系切り痕 底部破片
15	土師器	壺	—, —, 7.0		粗い 砂粒を含む	明褐色 黒褐色	底部回転系切り痕 底部破片
16	土師器	甕	—, —, 10.0		粗い 砂粒、金雲母 を含む	赤褐色	内面—横刷毛目 外面—底部木葉痕 線、横刷毛目? 底部破片
17	土師器	甕	—, 22.0, —		粗い 砂粒、金雲母 を含む	赤褐色	内面—横刷毛整形、撫で 外面—縦刷毛目 口縁部破片
18	土師器	鉢	—, 24.6, —		密 白・赤色粒子 を含む	淡黄色 (一部にぶい い橙色)	ロクロ水挽き 外面—胴下半へラ削り 口縁—胴部破片

<4号住居址出土遺物> (第20図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	土師器	坏	4.4, 15.0, 6.0		赤・白色粒子 を含む	明赤褐色	ロクロ水挽き 内面—放射状略文 外面—体部下半へラ削り 破片
2	土師器	坏	—, 12.6, —		赤・白色粒子 を含む	明赤褐色 灰・白色	ロクロ水挽き 外面—体部先端へラ削り 口縁部煤付着 破片
3	土師器	皿	2.6, 13.2, 4.8		赤色粒子を含 む	淡黄色 にぶい橙色	ロクロ水挽き 外面—体部下半へラ削り 1/3残



番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
4	土師器	皿	2.4, 13.3, 5.0		砂粒を含む 赤・白色、雲 母粒子を含む	にぶい褐色 にぶい橙色	クロク水挽き 外面-一部下半~底部へう削りさ れるが、磨滅により不鮮明 2/3残
5	土師器	皿	2.9, 13.2, 4.2		砂粒を含む 赤色粒子を含 む	にぶい橙色 にぶい黄橙色	クロク水挽き 外面-一部下半~底部へう削りさ れるが、磨滅により不鮮明 3/5残
6	土師器	皿	2.9, 15.4, 7.6		砂粒を含む 赤色粒子を含 む	にぶい橙色	クロク水挽き 底部回転糸切り痕 破片
7	土師器	皿	3.3, 13.2, 7.0		微砂粒を含む 赤・白色、金 雲母を含む	にぶい黄褐色 明黄褐色	クロク水挽き 底部回転糸切り痕 2/3残

< 5号住居址出土遺物 > (第20・21図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	須恵器	蓋	3.9, 11.6, -		やや粗い 白・黒色粒子 を含む	灰色	クロク水挽き 外面-上部回転へう削り 転用製 口縁部一部欠損
2	須恵器	蓋	-, -, -		やや粗い 白色粒子を含 む	灰白色	クロク水挽き 外面-上部回転へう削り 1/6残
3	土師器	環	4.1, 12.2, 5.8		砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色	クロク水挽き 外面-磨滅によりざらつく 底部へう削り 1/4残
4	土師器	環	4.2, 11.8, 4.4		砂粒、赤色粒 子を含む	にぶい黄褐色 (一部にぶい 褐色)	クロク水挽き 磨滅により全体にざらついでいる。 外面-一部下半~底部へう削り (不鮮明) 一部欠損
5	土師器	環	4.1, 12.1, 4.6		微砂粒、赤色 粒子を含む	褐色	クロク水挽き 外面-一部下半~底部へう削り 2/3残
6	土師器	環	4.1, 13.8, 6.8		微砂粒、赤色 粒子を含む	にぶい黄褐色	クロク水挽き 破片
7	土師器	環	4.9, 11.2, 5.8		密 細かい赤色粒 子を含む	にぶい褐色 明褐色 (底部黒変)	クロク水挽き 一部剥離 内面-放射状暗文あり 1/5残
8	土師器	皿?	3.0, 10.5, 5.8		砂粒を含む	にぶい赤褐色 (内面黒変)	クロク水挽き 外面-底部回転糸切り痕 2/3残
9	土師器	皿	2.7, 12.2, 4.0		微砂粒、赤色 粒子を含む	褐色	クロク水挽き 外面-一部下半へう削り 底部回転糸切り後へう削り 内面-口縁一部に煤付着 口縁部一部欠損
10	土師器	皿	2.7, 13.0, 4.8		赤色粒子を含 む	褐色 明褐色	クロク水挽き 外面-一部下半~底部へう削り 内面-口縁一部に煤付着 口縁部一部欠損
11	土師器	皿	2.6, 12.8, 4.0		砂粒を含む	にぶい橙色	クロク水挽き 外面-一部下半へう削り 底部回転糸切り後へう削り 口縁部一部欠損
12	土師器	皿	2.8, 12.0, 3.0		赤・白色粒子 を含む	にぶい橙色 浅黄色	クロク水挽き 外面-一部下半~底部へう削り (磨滅により不鮮明) 1/2残

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
13	土師器	甕	—, 31.0, —		粗い 砂粒を含む	明赤褐色 内面—横刷毛目 外面—縦刷毛目	内面—横刷毛目 外面—縦刷毛目 口縁部破片
14	土師器	甕	—, —, —		やや粗い 砂粒を含む	にぶい橙色	内面—横刷毛目 破片
15	鉄器	弁					

< 6号住居址出土遺物 > (第21・22図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	須恵器	蓋	4.6, 18.0, —		白色粒子を多 く含む	灰色	ロクロ水挽き 外面—上部回転へう削り 1/2欠損
2	須恵器	蓋	3.0, 12.3, —		白色粒子を多 く含む	灰色 口縁部一部灰 褐色	ロクロ水挽き 外面—上部回転へう削り 口縁部一部欠損
3	須恵器	高坏	14.3, 24.0, —		やや粗い 砂粒・赤・白・黒 色粒子を含む	明赤褐色 灰褐色	ロクロ水挽き 底部には付高台がめぐる 口縁部・脚部一部欠損
4	須恵器	高坏	—, —, —		白色粒子を含 む	灰色 一部赤灰色	ロクロ水挽き 脚部破片
5	須恵器	高坏	—, —, —		白色粒子を含 む	灰白色	ロクロ水挽き 脚部破片
6	須恵器	环	3.8, 13.0, 4.4		白色粒子を含 む	灰色	ロクロ水挽き 底部回転糸切り痕 2/3残
7	須恵器	甕	—, —, 10.0		白色粒子を含 む	灰色 暗灰色	壺又は甕か。自然釉がみられる。 底部破片
8	須恵器	高台付 坏	5.9, 16.3, 10.2		白・黒色粒子 を含む	灰色	ロクロ水挽き 付高台 胴部1/2欠損
9	須恵器	高台付 坏	—, —, —		白色粒子を含 む	淡灰色	底部破片
10	土師器	蓋	5.1, 16.0, —		砂粒、赤色粒 子を含む	淡黄褐色 黄褐色	ロクロ水挽き 外面—上部に重ね焼きによる火帯 状らしき痕跡あり 1/3欠損
11	土師器	环	3.5, 13.0, 6.2		赤色粒子を含 む	にぶい黄褐色	内面—放射状暗文 外面—体部下半～底部へう削り 1/3残
12	土師器	环	5.2, —, —		赤色粒子を含 む	にぶい赤褐色 にぶい橙色 一部黒変	内面—みこみ部、放射状暗文 外面—体部下半～底部へう削りさ れるが、磨滅により不詳明 1/4残
13	土師器	皿	2.05, 7.9, 4.9		赤色粒子を含 む	橙色 一部黒変	底部回転へう削り 3/5残
14	土師器	皿	—, 12.8, —		微砂粒を含む	黒色 灰白色 一部黒色	ロクロ水挽き 内面—黒色土器 破片
15	土師器	甕	4.8, 24.0, 9.0		粗い 白色粒子を多 く含む	にぶい褐色 黒褐色	口縁部横撫で 内面—横撫で 外面—縦方向の撫で 1/3残
16	土師器	甕	—, 14.0, —		金雲母を多 く含む	黒褐色 暗褐色	内面—横刷毛目 外面—縦刷毛目 破片

<7号住居址出土遺物> (第23・24図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面/外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	須恵器	坏	4.4, 11.6, 6.5		白・赤色粒子を含む	灰白色	ロクロ水挽き 外面-底部回転糸切り痕 5/6残
2	須恵器	壺	19.5, 6.5, 4.6		やや粗い 黒・白色粒子を含む	灰色	ロクロ水挽き 外面-底部回転糸切り痕 壺G 完形
3	須恵器	鉢	10.9, 19.9, -		やや粗い 白色粒子、砂粒を含む	灰黄褐色 (一部淡黄褐色)	ロクロ水挽き 外面-胴下半回転へう割り 磨滅によりざらつく 口縁部一部欠損
4	土師器	坏	4.2, 15.2, 5.2		微砂粒、細かい赤・黒色粒子を含む	にぶい褐色	ロクロ水挽き 内面-暗文あり(磨滅により不鮮明) 外面-墨書あり 底部回転糸切り後へう割り? 1/3残
5	土師器	坏	4.4, 10.6, 4.7		白・赤色粒子を含む	褐色	ロクロ水挽き 内面-放射状暗文あり 外面-体部下半へう割り 墨書あり 底部回転糸切り後へう割り 口縁部一部欠損
6	土師器	坏	3.8, 10.4, 5.2		赤色粒子を含む	にぶい褐色	ロクロ水挽き 内面-暗文あり(磨滅により不鮮明) 外面-体部下半へう割り (磨滅により不鮮明) 底部回転糸切り後へう割り 刻書あり 完形
7	土師器	坏	4.5, 11.0, 5.6		密赤・白色粒子を含む	褐色	ロクロ水挽き 内面-放射状暗文あり 外面-体部下半へう割り 底部回転糸切り後へう割り 口縁部一部欠損
8	土師器	坏	4.3, 10.5, 5.0		密赤・白色粒子を含む	灰白褐色 (外面一部黒変)	ロクロ水挽き 内面-暗文あり(磨滅により不鮮明) 外面-体部下半へう割り 底部回転糸切り後へう割り 口縁部一部欠損
9	土師器	坏	4.4, 11.2, 5.1		密赤色粒子を含む	褐色	ロクロ水挽き 内面-暗文あり(磨滅により不鮮明) 外面-体部下半へう割り 2/5残
10	土師器	坏	4.3, 10.1, 5.0		密赤・白色微粒子を含む	褐色	ロクロ水挽き 内面-放射状暗文あり (磨滅により不鮮明) 外面-体部下半へう割り 2/5残
11	土師器	坏	4.0, 10.7, 5.0		赤色粒子を含む	にぶい褐色	ロクロ水挽き 内外面-磨滅によりざらつく 口縁部一部欠損
12	土師器	坏	4.35, 10.8, 5.4		密赤・白粒子を含む	灰色褐色 褐色 (一部褐灰色)	ロクロ水挽き 外面-体部下半へう割り 底部回転糸切り後外周へう割り 1/5欠損
13	土師器	皿	2.3, 10.6, 5.4		密赤色粒子を含む	淡黄褐色 (内面一部黒変)	ロクロ水挽き 外面-底部回転糸切り後へう割り 煤付着 2/5残
14	土師器	甕	17.5, 8.0, 7.6		粗い砂粒、金粟母を多量に含む	にぶい褐色 (一部黒変) 赤褐色 (一部黒変)	内面-横刷毛目 外面-縦刷毛目 底部木葉紋あり 1/3残
15	石器	凹石					

< 8号住居址出土遺物 > (第24図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量	胎土	色調(内面/外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	須恵器	環	4.0, 14.2, 6.7	砂粒を含む	淡黄色	ロクロ水挽き 底部回転糸切り後へう削り 2/5残
2	須恵器	環	-, 14.8, -	白・黒色砂粒を含む	灰黄色	ロクロ水挽き 口縁部破片
3	須恵器	甕	-, -, 15.6	やや粗い 白色粒子を含む	灰白 一部黒変	内面-横撫で 外面-叩き目 胴下部削り痕あり 胴~底部破片
4	土師器	環	6.6, 14.0, 8.5	赤色粒子を含む	にぶい橙色	内面-体部・みこみ部に放射状暗文 外面-底部へう削り後へう磨き

< 9号住居址出土遺物 > (第24図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量	胎土	色調(内面/外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	須恵器	甕	-, -, -	白色粒子を含む	明褐色 赤褐色	内面-撫で 外面-叩き目 破片
2	土師器	甕の 羽口		やや密 赤色粒子を含む	にぶい褐色	磨滅により不鮮明 破片

< 10号住居址出土遺物 > (第25図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量	胎土	色調(内面/外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	須恵器	高台付 付環	3.9, 12.4, 7.8	白色粒子を含む	灰色	底部付高台 底面の×印と墨書あり 2/3残
2	土師器	皿?	2.5, 9.4, 5.0	赤色粒子を含む	浅黄褐色 一部黒変	ロクロ水挽き 底部へう削り 破片

< 1号竈穴状遺構出土遺物 > (第25図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量	胎土	色調(内面/外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	須恵器	高台付 付環	3.8, 12.0, 8.0	砂粒を含む	暗灰黄色 灰黄褐色	ロクロ水挽き 底部-付高台 墨書 2/3欠損
2	土師器	環	3.8, 12.0, 7.6	粗い砂粒を含む	にぶい橙色	ロクロ水挽き 底部回転糸切り後へう削り 口縁一部に煤付着 一部欠損

< 1号土壇出土遺物 > (第25図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量	胎土	色調(内面/外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	陶器	卸皿	-, -, -	精製	灰白色	内外面-軸がかかっている 底部回転糸切り痕 底部破片

<3号土壇出土遺物> (第25図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量	胎土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	須恵器	甕	-, -, -	粗い 砂粒を含む	灰黄色 にぶい黄褐色 上部 にぶい赤褐色	外面一撫で 肩部に叩き痕  胴部破片

<4号土壇出土遺物> (第26図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量	胎土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	須恵器	蓋	-, -, -	白・黒色砂粒 を含む	灰色	ロクロ水挽き 外面-上部へう割り  破片
2	土師器	蓋	-, 19.6, -	赤色粒子を含 む	にぶい褐色	ロクロ水挽き 稜線磨滅により不鮮明  2/5残
3	土師器	環	4.3, 11.6, 6.2	赤色粒子を含 む	褐色	ロクロ水挽き 内面-暗文があるが磨滅により不 鮮明 外面-体部へう割り 底部回転糸切り後外周へう割り 共に磨滅により不鮮明  2/5残
4	土師器	環	4.3, 11.1, 6.0	微砂粒を含む	にぶい褐色	ロクロ水挽き 内面-暗文があるが不鮮明 外面-煤付着、底部-体部につけ へう割り痕があるが磨滅により不 鮮明  口縁部一部欠損
5	土師器	環	4.0, 11.4, 5.3	赤色粒子を含 む	褐色	ロクロ水挽き 内面-割離により不鮮明 外面-磨滅により不鮮明  2/5残
6	土師器	環	-, -, 6.6	金雲母、赤色 粒子、微砂粒 を含む	褐色	ロクロ水挽き 内面-放射状暗文 外面-体部下半へう割り 底部-体部破片
7	土師器	環	3.6, 11.4, 5.6	金雲母、赤色 粒子を含む	にぶい褐色 明赤褐色	内面-放射状暗文 外面-体部下半へう割り 底部回転糸切り後外周へう割り 墨書あり  1/4残
8	土師器	環	3.9, 10.6, 5.7	金雲母、赤色 粒子を含む	明赤褐色	内面-放射状暗文 外面-体部下半へう割り 底部回転糸切り後外周へう割り 口縁部一部欠損
9	土師器	罐の 羽口	-, -, -	やや粗い 赤色粒子、砂 粒を含む	褐色 にぶい褐色	熱を受けた為か脆い  破片
10	土師器	罐の 羽口	-, -, -	やや粗い 砂粒を含む	灰褐色 にぶい褐色	熱を受けた為か脆い  破片
11	銭貨					○元〇賣
12	銭貨					

<1号溝状遺構出土遺物> (第26・27図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量	胎土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	土師質	内耳 土器	18.0, 28.9, 26.3	黒色粒子及び 砂粒を含む	にぶい黄褐色 褐灰色	1/4

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
2	土師器	環	4.2, 11.0, 5.8		赤色粒子を含む	にぶい橙色	内面-放射状暗文と横溝文が施されている 外面-底部下半へう割り 1/2残
3	鉄						不明
4	石器	石斧					
5	石器	凹石					

<3号溝状遺構出土遺物> (第27図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	須恵器	環	-, -, 5.0		砂粒を含む	緑灰色	ロクロ水挽き 底部回転系切り 底部破片
2	須恵器	壺	-, -, 9.0		白・黒色、石英粒子を含む	灰色 灰黄褐色 一部黒変	ロクロ水挽き 付高台 底部破片
3	須恵器	壺	-, -, 12.0		白色粒子を含む	暗灰黄色 灰黄褐色	ロクロ水挽き 外面-自然釉、へう割りあり 底部付近の破片
4	須恵器	壺	-, 36.0, -		白・黒色粒子を含む	灰色	ロクロ水挽き 口縁部破片
5	土師器	環	4.0, 11.5, 4.0		赤色粒子及び砂粒を含む	橙色	ロクロ水挽き 口縁部に黒付着 外面-底部下半へう割り 底部回転系切り後へう割り 口縁部一部欠損
6	土師器	環	-, 17.0, -		赤色粒子及び砂粒を含む	灰色 淡橙色	ロクロ水挽き 内面-放射状暗文 外面-胴部へう割り磨滅により不鮮明 磨滅により不鮮明だが内面黒色土器 1/5
7	土師器	壺	-, 24.4, -		金雲母、砂粒を含む	橙色	ロクロ水挽き 外面-胴部に叩き目 口縁部-胴部の破片
8	土師器	土甕	長さ 調節 孔の直径 3.3, 6.3, 0.4		赤色粒子及び砂粒を含む	にぶい橙色	へう割りあり磨滅により不鮮明 完形

<8号溝状遺構出土遺物> (第27図)

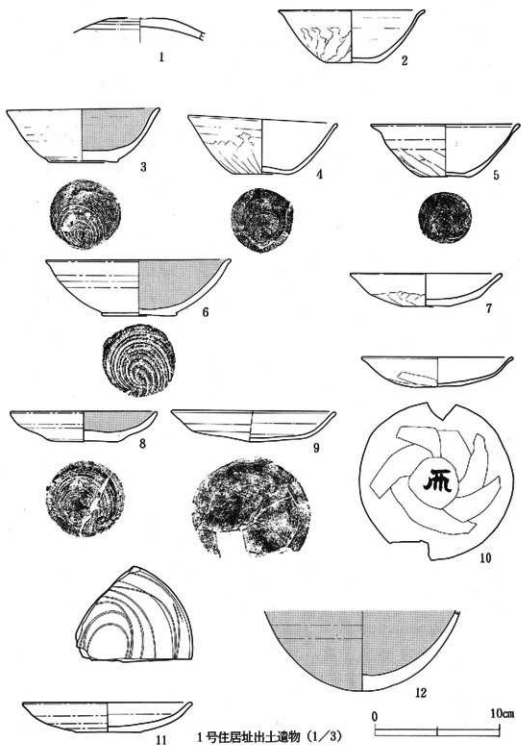
(単位 cm)

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	土師器	環	4.7, 13.6, 5.6		密	明赤褐色	内面-花卉状暗文 外面-底部回転系切り後へう割り 1/3残

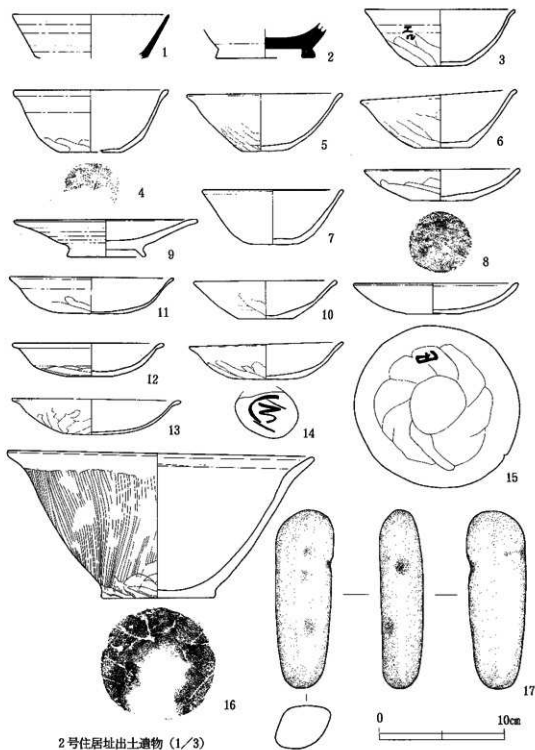
<9号溝状遺構出土遺物> (第28・29図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	土師器	褶り鉢	-, -, 15.0		密赤色粒子を含む	淡紫色 黒褐色	内面-8~9条の溝がつけてある 破片
2	土師器	皿	2.1, 14.4, -		赤・白色粒子を含む	にぶい橙色	破片



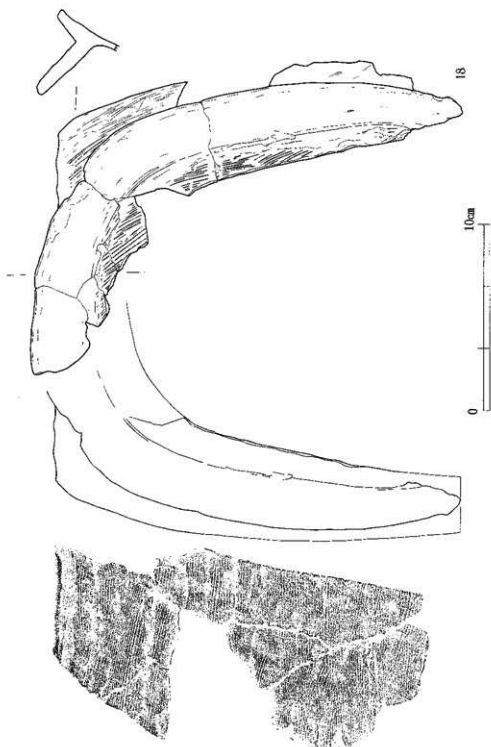
第10回 宮ノ前第2遺跡出土遺物



2号住居址出土遺物 (1/3)

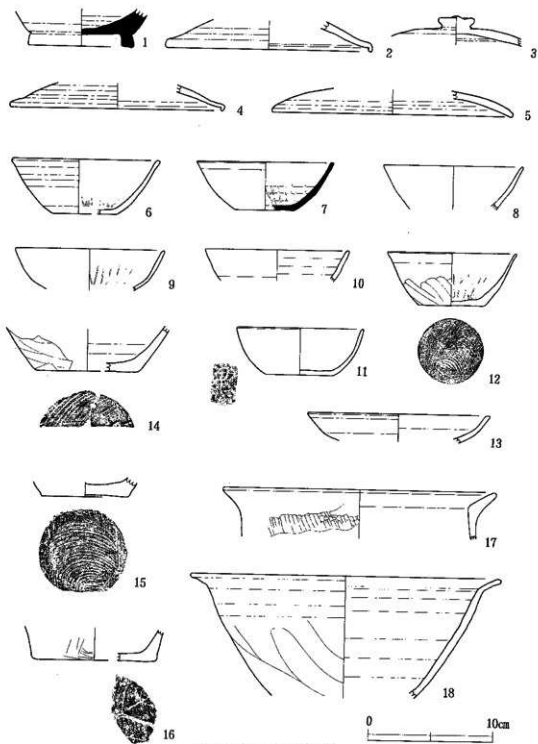
第17図 宮ノ前第2遺跡出土遺物





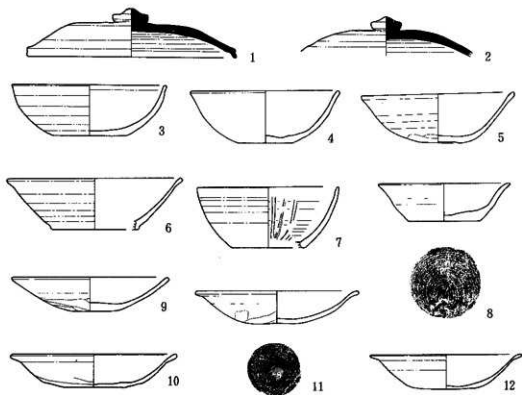
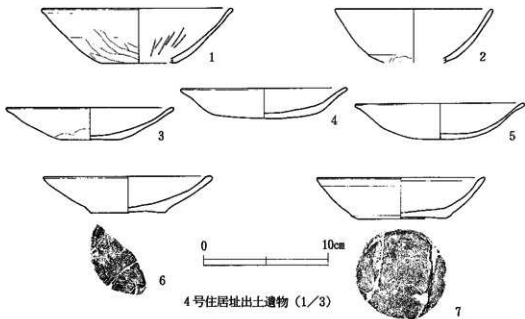
2号住居址出土遺物 (1/3)

第18図 宮ノ前第2遺跡出土遺物

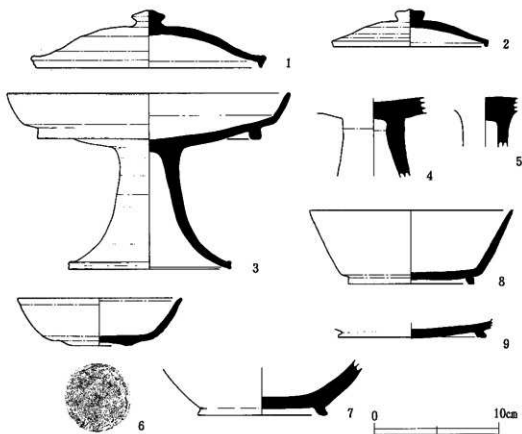
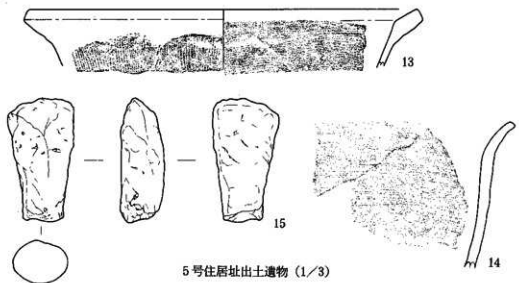


3号住居址出土遺物 (1/3)

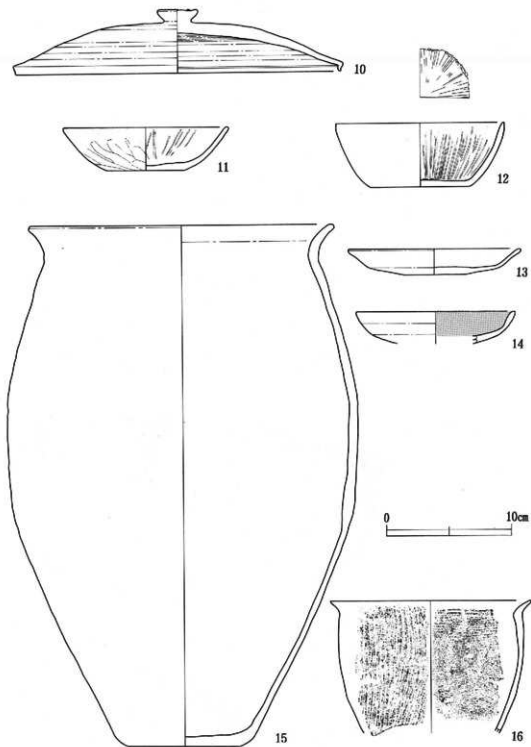
第19回 宮ノ前第2遺跡出土遺物



第20回 宮ノ前第2遺跡出土遺物

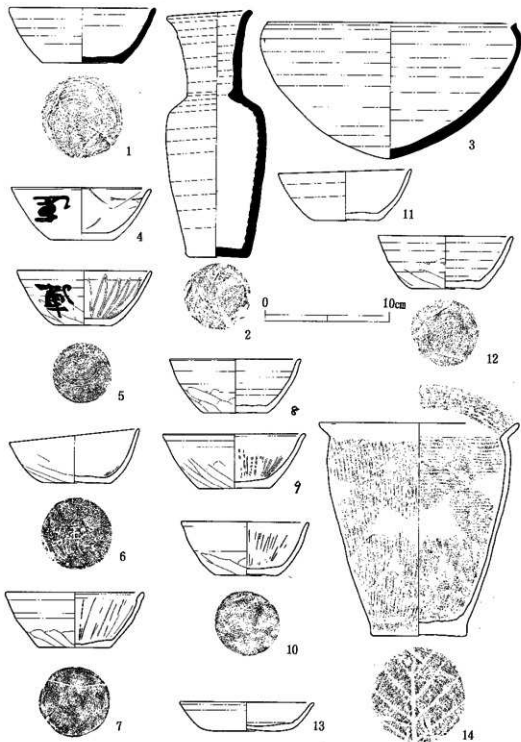


第21图 宮ノ前第2遺跡出土遺物



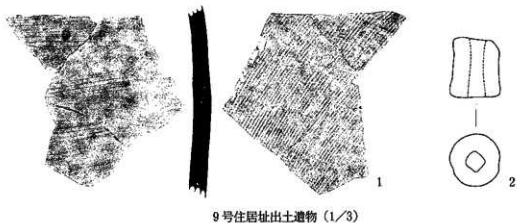
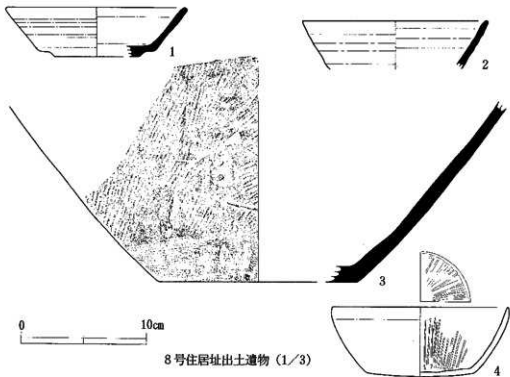
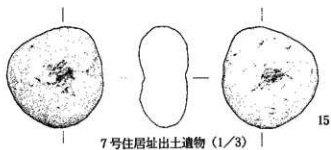
6号住居址出土遺物 (1/3)

第22図 宮ノ前第2遺跡出土遺物

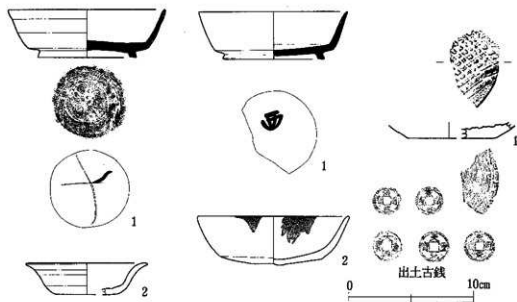


7号住居址出土遺物 (1/3)

第23図 宮ノ前第2遺跡出土遺物

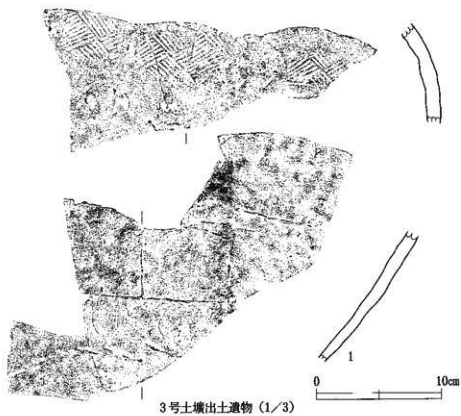


第24図 宮ノ前第2遺跡出土遺物



10号住居址出土遺物 (1/3) 1号堅穴状遺構出土遺物 (1/3)

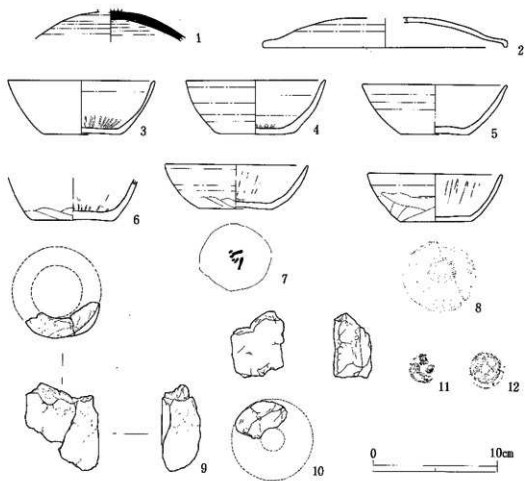
1号土壙出土遺物 (1/3)



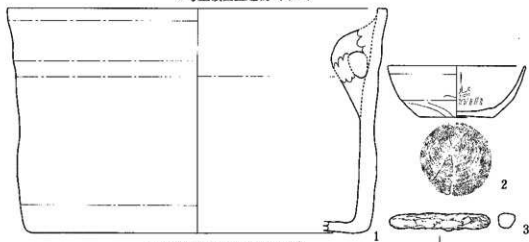
3号土壙出土遺物 (1/3)

第25図 宮ノ前第2遺跡出土遺物



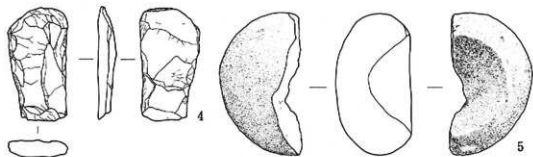


4号土坑出土遺物 (1/3)

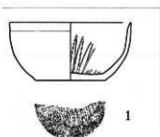
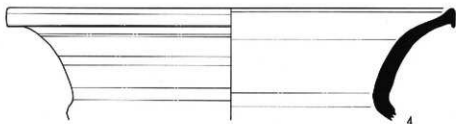
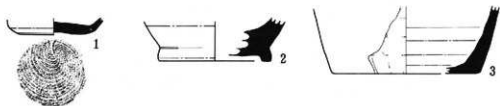


1号溝状遺構出土遺物 (1/3)

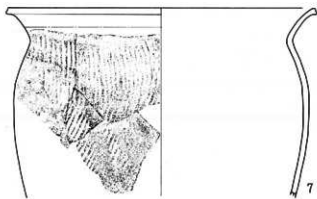
第26図 宮ノ前第2遺跡出土遺物



1号溝状遺構出土遺物 (1/3)

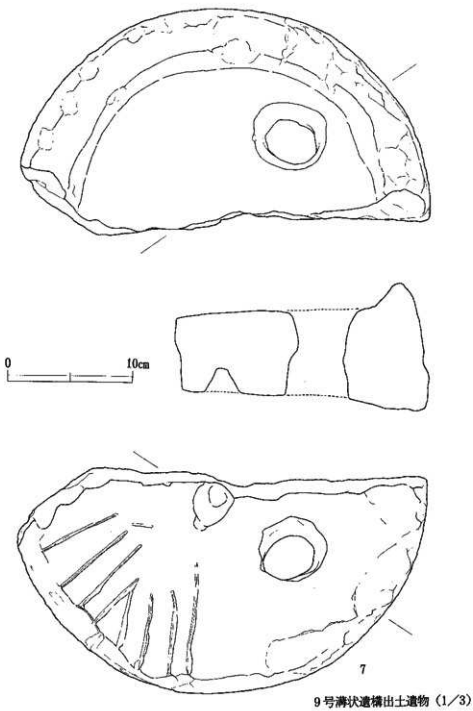


8号溝状遺構出土遺物 (1/3)

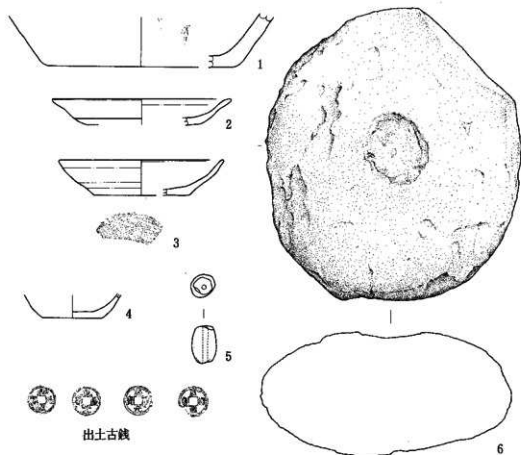


3号溝状遺構出土遺物 (1/3)

第27図 宮ノ前第2遺跡出土遺物

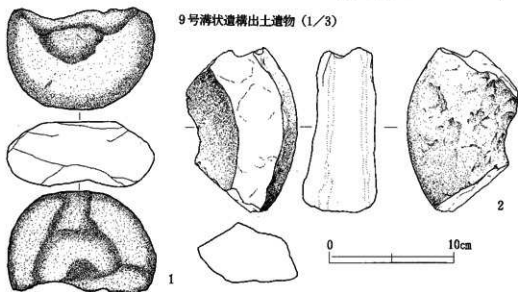


第26図 宮ノ前第2遺跡出土遺物



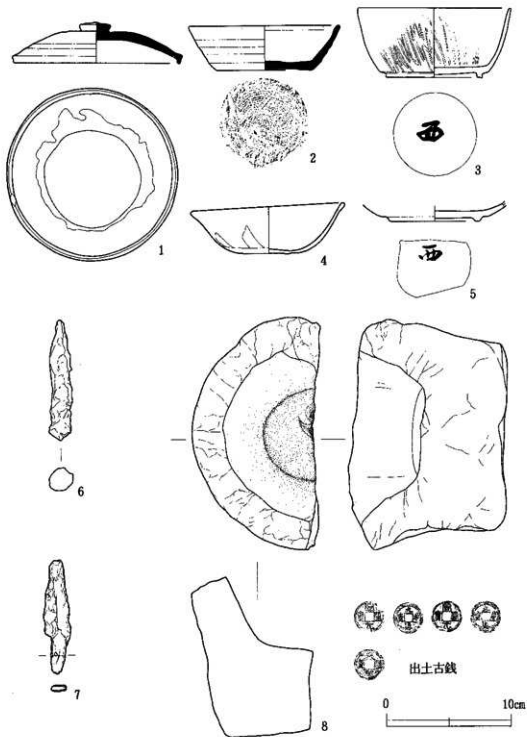
出土古銭

9号溝状遺構出土遺物 (1/3)



10号溝状遺構出土遺物 (1/3)

第29図 宮ノ前第2遺跡出土遺物



遺構外出土遺物 (1/3)

第30図 宮ノ前第2遺跡出土遺物

番号	種類	器形	法 量	胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
3	土師器	皿	2.8, 13.2, 7.6	赤・白色粒子 を含む	褐色	ロクロ水挽き 外面-底部回転糸切り痕 破片
4	土師器	环	-, -, 4.8	赤色粒子を少 量含む	灰白色	外面-胴下半へう削り (磨滅により不鮮明) 破片
5	土師器	土罐	長さ 胴口 孔の直径 3.0, 6.2, 0.45	粗い 砂粒を含む	淡褐色	表面へう削り(磨滅により不鮮明) ほぼ完形
6	石器	?				
7	石器	石臼				

<10号溝状遺構出土遺物> (第29図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法 量	胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	石器	凹石				ひで鉢の類か?
2	石器	臼?				

<遺構外出土遺物> (第30図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法 量	胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	須恵器	蓋	3.3, 13.0, -	やや密 白色粒子を含 む	灰色	ロクロ水挽き 内面-擦痕あり、転用硯 完形
2	須恵器	环	3.6, 12.0, 7.4	密 細かい白色粒 子を含む	にぶい黄褐色	ロクロ水挽き 外面-底部回転糸切り痕 2/3残
3	土師器	高台 付環	5.5, 12.0, 7.6	密 赤色粒子をわ ずかに含む	にぶい黄褐色	ロクロ水挽き 内面-放射状暗文あり 外面-胴部に細かい暗文 底部に墨書あり 口縁部欠損
4	土師器	环	3.8, 12.0, 4.5	細かい黒・赤 色粒子を含む	にぶい褐色	ロクロ水挽き 外面-胴下部へう削り 底部回転糸切り後へう削り 一部欠損
5	土師器	高台 付環	-, -, 6.6	細かい茶色粒 子を含む	にぶい褐色 にぶい褐色	ロクロ水挽き 内面-底部に暗文あり (磨滅により不鮮明) 外面-底部に墨書あり 削出し高台 底部破片
6	鉄器	?				
7	鉄器	刃子				
8	石器	ひで鉢				

以上みてきた外に、平瓦・丸瓦等の古瓦類が出土している。以下に紹介する古瓦類は、総数62  
8点の内から任意に抽出したものである。

<丸瓦> (第31・32・33図)

総数148点であるが、すべて破片であり全体を復元出来る資料はなかった。軒丸瓦はみられな  
い。総重量は11.5kg。瓦を重ねる狭端部は行基式のもののみみられず、段差を有する玉縁式のもの  
となっている。作成は粘土板を円筒状にし、この粘土円筒を2分割する方法によるものと思われ  
る。凹面にはすべて布目痕が残る。凸面は叩きの後、横乃至縦方向の撫でによって叩目を磨り消

しているが、一点叩目の残るもの(2)がみられた。玉縁付丸瓦(9~14)は狭端部を幅3~6cm、深さ3mm前後に削りつくられている。1・7・8・10は2号住居址出土。14は5号住居址出土。2は4号土壇出土。12・13は1号溝状遺構出土。6・7は3号溝状遺構出土。4は10号溝状遺構出土。他は遺構外出土。

#### 〈平瓦〉 (第34・35・36・37図)

総数407点ですべて破片であるが、形状の推定できる資料(1)が一点復元できた。軒平瓦はみられない。総重量45.7kg。瓦は粘土の重ね目や、布目痕の残る凹面に布の縦じ合わせ目、桶の梓板圧痕等がみられ、粘土板を巻き付ける桶巻作りによってつくられたものと考えられる。凸面は縄叩き痕が明瞭である。通常桶巻作りの平瓦は4分割によってつくられるらしいが、本遺跡の平瓦は凸面の弧から推測すると5分割乃至6分割によってつくられたものと思われる。瓦は中央部分の幅によって、約23cmの最大のもの、20cm前後の中間のもの、17cm程の小型のものに大別できるが、それが使用箇所の違いによるものか、製作過程における分割によって生じたものか不明である。資料1によって復元される法量は全長31cm、広端部幅25cm、狭端部幅22cmで厚さは平均して1.5cmを測る。布目は1cm四方に8×8本を数える。1・3・9は2号住居址カマドから出土。10は1号住居址出土。5は7号住居址カマド出土。4・6・11は4号土壇出土。7は1号溝状遺構出土。8は3号溝状遺構出土。2は遺構外出土。

#### 〈鬼瓦〉 (第38図)

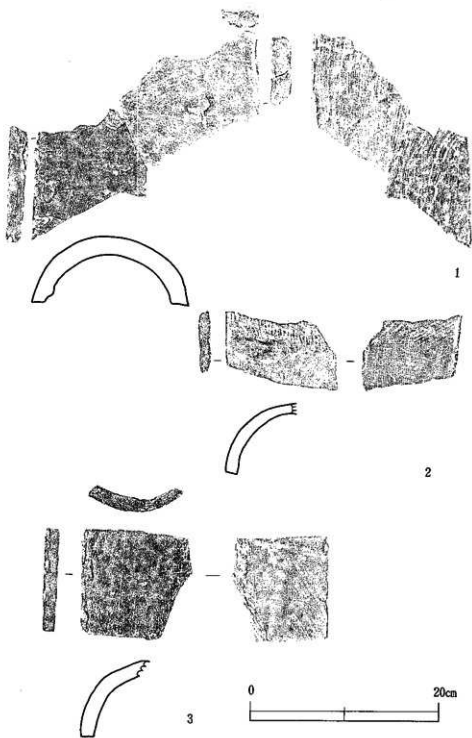
破片数9点で総重量は1.1kgである。4号獨立柱建物址の周辺から出土している。形状はアーチ形を呈すると思われる、外縁は鬼面部分に対しほぼ直角である。眉・毛等の表現は沈線によって描かれ、目及び口は長楕円形にくりぬいて表現される。鼻は顔面の中心に粘土塊をつけ、削りと撫でによって整形され鼻孔が決られている。齒乃至牙は不明。裏面には布目痕がみられるが、「□」形状の台に粘土板を着せし成形し意匠を施した後、台からはずし目と口を明けたものとみられる。本来鬼は目を大きく見開き目尻を吊り上げた形相が一般的であるが、本遺跡のものは目尻のさがった垂れ目を呈するようであり、迫力に欠けなんとなく愛嬌のある鬼瓦である(表紙の推定復元図参照)。

#### 〈塼あるいは熨斗瓦〉 (第39・40図)

総数64点で、総重量は8.3kgである。長さのわかるものは無い。幅は12cm前後から13cm・15cmのものがあり、厚さは10~25cmを測り15~20cmのものが多い。胎土は肉眼で見るとかぎり砂粒を多く含む。整形は刷毛目・撫で・削り等がみられ、一部布目痕らしき痕跡が見られるもの(2)がある。色調は灰白色系を呈する。塼か熨斗瓦のたぐいであろう。1は4号住居址出土。2・3は1号住居址出土。5は4号土壇出土。6~10は3号溝状遺構出土。4は8号溝状遺構出土。

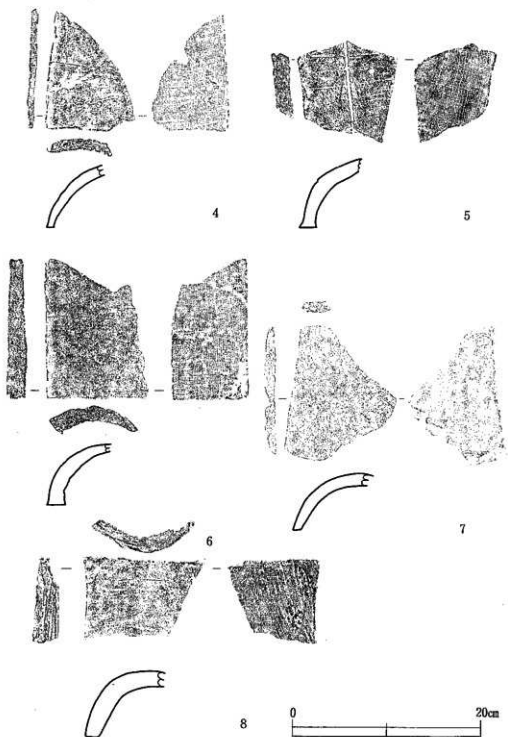
#### 〈瓦塔〉 (第41・42図 1~15)

破片数15点。4号獨立柱建物址周辺及び9号溝状遺構から出土している。色調はにぶい橙〜にぶい褐色系で土師質である。1~9は屋蓋の部分破片。屋根は半截竹管状工具によって、継目の長さ1cm前後~2.5cm前後で丸瓦が表現されている。垂木の幅は1.5cm前後を測る。10~15は斗拱

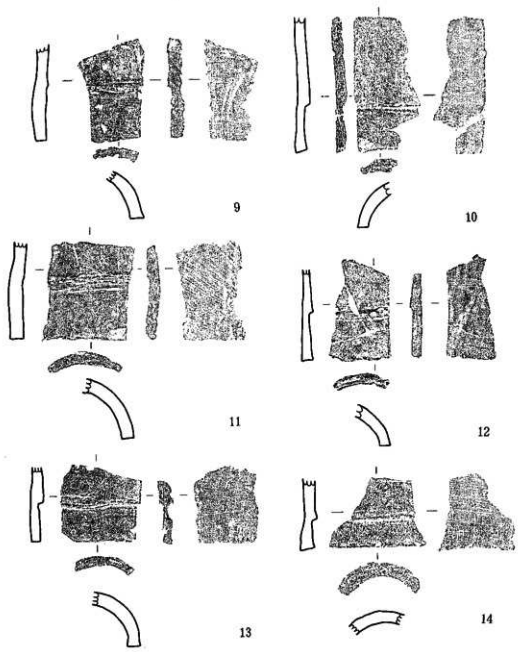


第31圖 宮ノ前第2遺跡出土瓦 (1/4)

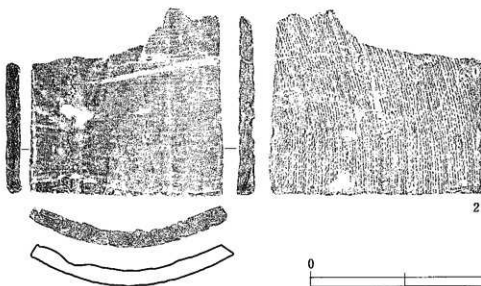
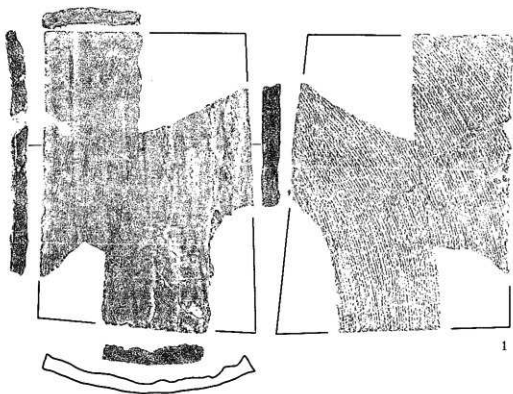




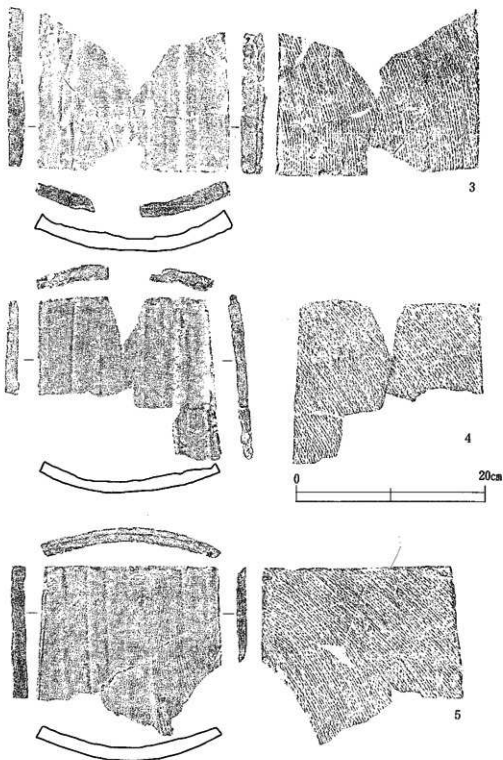
第32圖 宮ノ前第2遺跡出土瓦 (1/4)



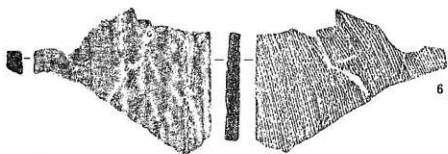
第33圖 宮ノ前第2遺跡出土瓦 (1/4)



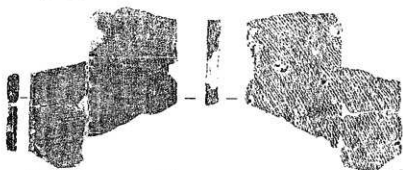
第34図 宮ノ前第2遺跡出土瓦 (1/4)



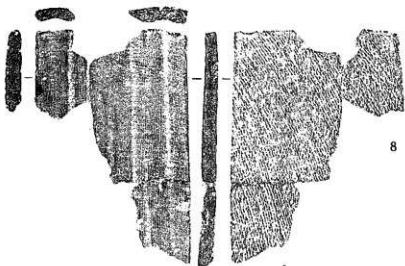
第35圖 宮ノ前第2遺跡出土瓦 (1/4)



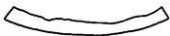
6



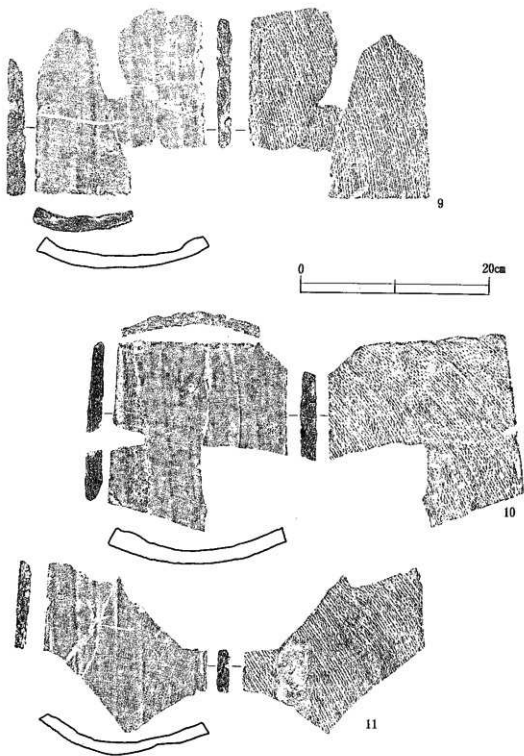
7



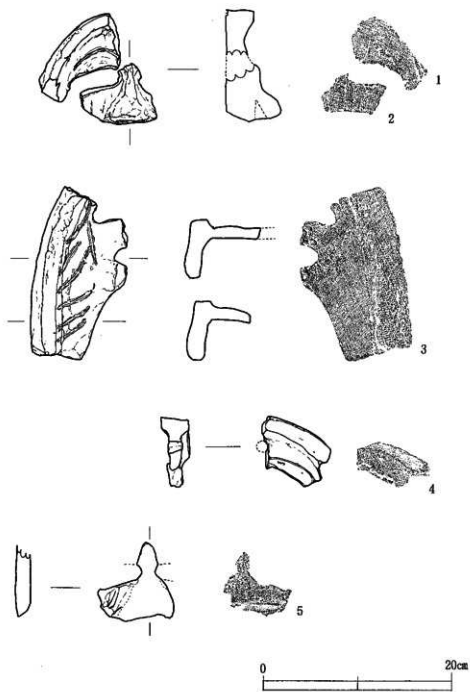
8



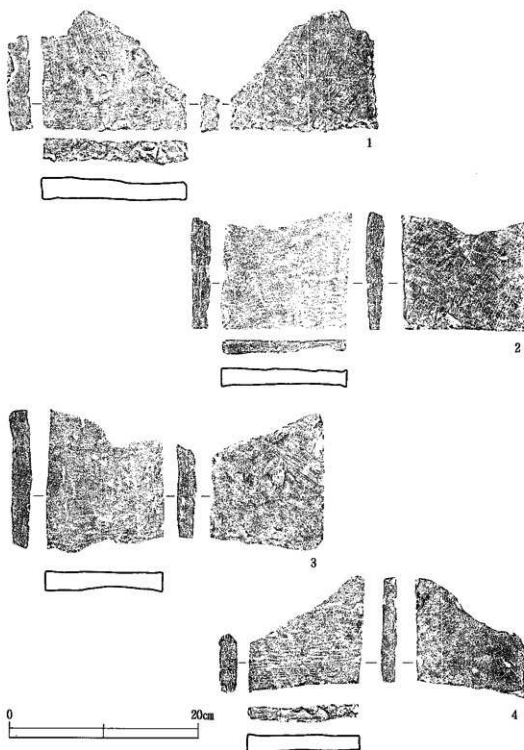
第36図 宮ノ前第2遺跡出土瓦 (1/4)



第37図 宮ノ前第2遺跡出土瓦 (1/4)

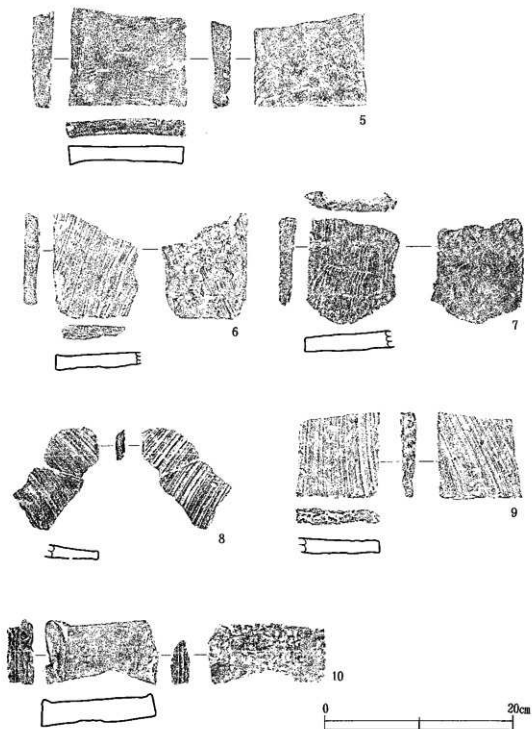


第38図 宮ノ前第2遺跡出土瓦 (1/4)

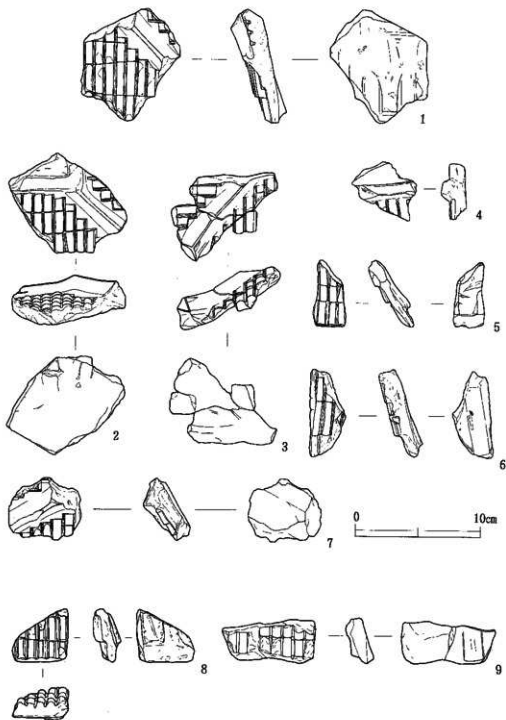


第39回 宮ノ前第2遺跡出土遺物 (1/4)

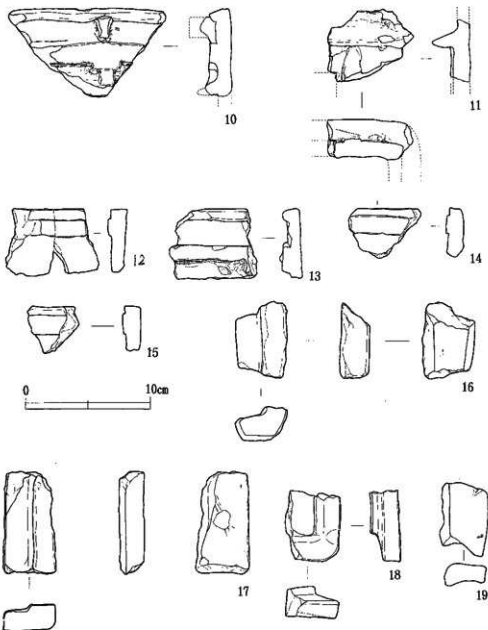




第40図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 (1/4)



第41圖 宮ノ前第2遺跡出土遺物 (1/3)



第42図 宮ノ前第2遺跡出土遺物 (1/3)

等の付けられた壁体の破片。10・11は初重の部分と思われる。11には開口部の端と思われる削り込みが見られる。

〈土製品〉 (第42図 16~19)

色調はふい橙〜ふい褐色系で土師質である。胎土には砂粒を含む。比較的厚みをもったつくりとなっている。瓦塔の基壇部分であろうか、用途は不明である。

## Ⅱ 北堂地遺跡

### 1 遺構 (第43回)

調査の結果発見された遺構は、縄文時代中期の竪穴住居址3軒、平安時代の竪穴住居址5軒、中世の地下式土壇5基・水溜状遺構3基、近世の土壇墓1基、溝状遺構1条、その他土壇群となっている。竪穴住居址を主体に時代を追ってみたい。

#### ① 縄文時代

##### <A区2号住居址> (第44回)

A区北西側に位置する。暗黄褐色系土中に暗褐色系土の落ち込みを発見し発掘する。規模は東西約6.3m、南北約6.7mを測り、平面形は不整の円形を呈する。壁高は25cm前後を測る。壁はやや外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦。柱穴は壁際にめぐり、床面からの深さ70cm前後を測る。炉は住居址内北東寄りに石囲いでつくられていた。床面をとばし掘り形まで下げたが埋塞はなかった。

##### <A区3号住居址> (第44回)

A区南東側に位置する。南半分は5号住居址に切られており遺存していない。規模は直径約4.4mで、平面形は円形を呈していたと思われる。壁高は高い所で約30cmを測る。壁はやや外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦。柱穴は壁際にめぐり3本で、床面からの深さは25~45cmを測り不揃いとなっている。炉は住居址内東寄りに石囲いでつくられるが、南東側の2カ所は石が抜かれていた。北壁寄りの床面上には、偏平な石が置かれていた。

##### <B区1号住居址> (第45回)

B区北西端に位置する。暗黄褐色系土中に暗褐色系土の落ち込みを発見し発掘する。南西側は3号住居址に切られている。規模は東西約5.5m、南北約5.8mを測り、平面形は不整の円形を呈する。床面はほぼ平坦。壁は外傾している。壁高は15cm前後~20cmを測る。柱穴は基本的には6本で、壁際にめぐっている。柱穴の床面からの深さは、60~90cm前後を測る。炉は中央にあり、小さめの石を用いて囲んだものとなっている。北・東二方向の石は抜かれてしまったようである。焼土が炉の北側に検出された。

#### ② 平安時代

##### <A区1号住居址> (第46回)

A区北西端に位置する。規模は東西約4.7m、南北約4.5mを測り、平面形は東壁がやや広がった不整な隅円方形を呈する。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は10cm前後を測る。周溝・柱穴は無い。カマドは南西隅に構築されていたものと思われるが、焼土のみが検出されただけである。住居址中央にも焼土がみられた。他に内部施設としては、南側に穴が確認された。

##### <A区4号住居址> (第46回)

A区南端に位置する。北東は5号住居址に切られている。規模は東西約3.5m、南北約3.2mを

測り、平面形は不整の隅円長方形を呈する。床面はほぼ平坦。壁はやや外傾しながら立ち上がる。壁高は10cm～20cm前後を測る。周溝・柱穴は無い。カマドは東壁中央に構築されるが、5号住居址及び耕作による削平で遺存状態は悪かった。

#### ＜A区5号住居址＞（第46図）

A区南東端に位置する。南西は4号住居址と重複しており、壁は明瞭ではなかった。また、北側は3号住居址を切っている。規模は東西約3.9m、南北約3.1mを測る。平面形はやや不整の隅円長方形を呈すると思われる。床面はほぼ平坦で、4号住居址との比高差はほとんど無い。周溝・柱穴は無い。遺存状態は良好では無いがカマドは東壁中央に構築され、石が用いられていたようである。

#### ＜B区2号住居址＞（第47図）

B区中央南端に位置する。耕作等により削平され、壁高5cm前後の非常に浅い竪穴となっている。規模は東西約3m、南北約2.8mを測る。周溝・柱穴は無い。床面南東端に焼土が確認されたが、カマドの跡であろうか。

#### ＜B区3号住居址＞（第45図）

B区北西端に位置する。北側は1号住居址と重複しており、明瞭ではなかった。規模は一辺3.5mで、平面形は方形と思われる。床面はほぼ平坦。壁は外傾しながら立ち上がる。壁高は15cm前後を測る。周溝・柱穴は無い。カマド跡は南東側の凹みがそうであろうか。南西側は後世の土壌が2基掘られていた。

### ③ 中世以降

#### ＜A区1号水溜状遺構＞（第47図）

A区東側に位置する。平面形は長方形を呈し、規模は長辺約3.7m、短辺約2mを測る。地面を長方形に掘りくぼめ外縁に石を2段程積んで構築され、底は粘性がありしまりのある暗赤褐色の土層となっている。水の取り入れ口は北西隅で、出水口は北東隅につくられている。検出時点では砂がいちめんじに堆積しており、底面には鉄分の沈着がみられた。確認面からの深さは20cm前後であるが、中央東側部分は10cm程深くなっている。本遺構に伴う掘立柱建物址等の遺構は調査区域内では確認されなかった。

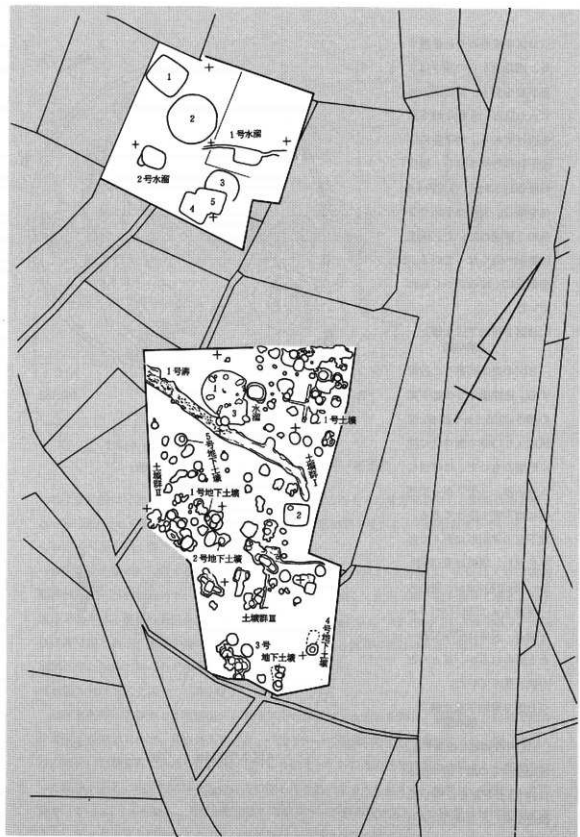
#### ＜A区2号水溜状遺構＞（第47図）

A区南西側に位置する。砂の堆積と底面の鉄分沈着により水溜状遺構とした。平面形は隅円長方形を呈する。規模は長辺約3.1m、短辺約2.5mを測る。壁は外傾し立ち上がる。畑の境にあり南側は削平され、南西隅は攪乱。壁高は15cm～30cm前後を測る。

#### ＜B区水溜状遺構＞（第47図）

B区北端に位置する。砂の堆積と底面の鉄分沈着により水溜状遺構とした。平面形は不整の隅円形で、径約2.5m×2.1mを測る。壁は外傾。壁高は15cm～25cm前後を測る。

#### ＜B区1号地下式土壌＞（第48図）



第43図 北堂地遺跡全体図 (1:500)

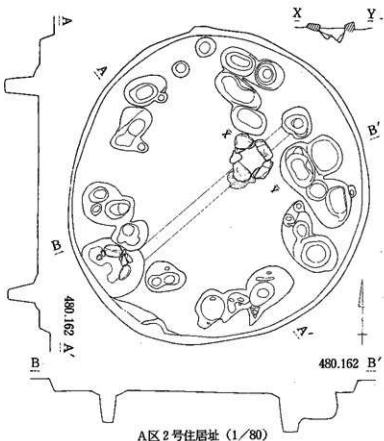
B区中央西寄りに位置する。確認面からの深さは2m前後を測る。竪坑が斜めに入り込み、北側に地下室を設けてある。地下室の平面形は長方形を呈し、規模は長辺約2.9m、短辺約1.6mを測る。天井は平坦で3分の2程崩れていた。床面は奥側へ低くなっている。東側壁にくぼみがつくられていた。

＜B区2号地下式土壌＞  
(第48図)

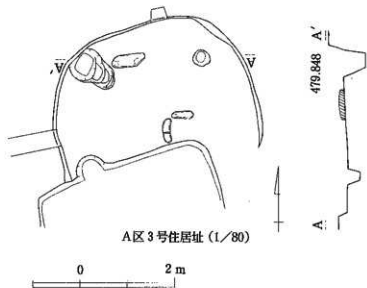
B区中央南西寄りに位置する。確認面からの地下室の深さは約1.5mを測る。竪坑は入り口部で漏斗状に開く形態のもので、ほぼ直に入り込み、一段下って西側に地下室を設けてある。地下室の平面形は歪んだ台形を呈し、規模は東辺約1.8m、西辺約2.3m、東西の一番膨らんだ部分で1.7mを測る。天井は平坦であったと思われるが、ほとんどが崩れ落ちていた。

＜B区3号地下式土壌＞  
(第49図)

B区中央南端に位置する。確認面からの地下室の深さは約1.5mを測る。竪坑は段差を有し、ほぼ直に入り込み、一段下って北西側

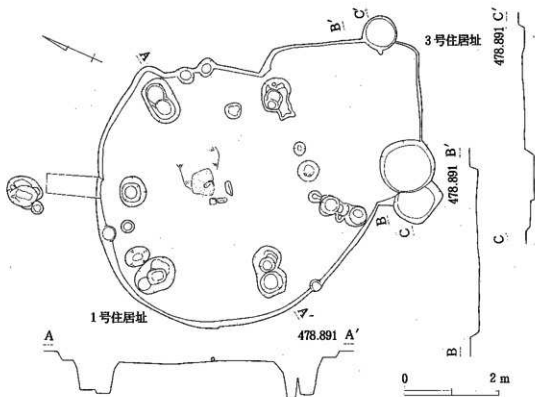


A区2号住居址 (1/80)



A区3号住居址 (1/80)

第44図 北堂地遺跡遺構平・断面図



B区1号住居址・3号住居址 (1/80)

第45図 北堂地遺跡遺構平・断面図

に地下室に設けてある。地下室の平面形は南東側に円みをもった長方形を呈し、規模は長辺約2 m、短辺約1.5 mを測る。天井は円みをもっており、蒲葺形を呈する。一部崩れ落ちていた。

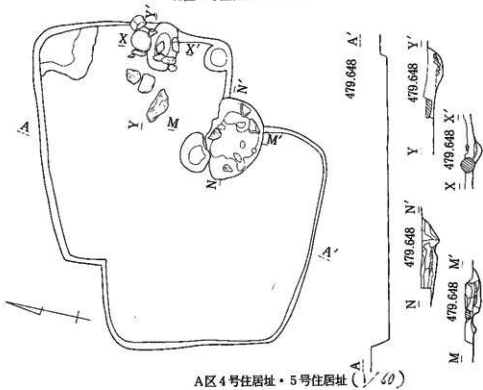
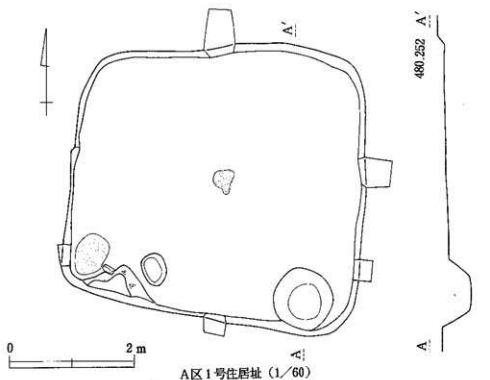
〈B区4号地下式土城〉 (第49図)

B区中央南東端に位置する。確認面からの地下室の深さは約2.5 mを測る。竪坑は入り口部で漏斗状に開く形態のもので、ほぼ直に入り込み、底は傾斜して北側に地下室を設けてある。地下室の平面形は不整な四角形を呈し、規模は各辺約2 m・約1.2 m・約1.4 m・約1.7 mを測る。天井はほぼ平坦である。東壁が膨らみ砲弾状の断面を呈する。壁等に岩石の断面が露呈していたので、掘削作業は困難であっただろう。

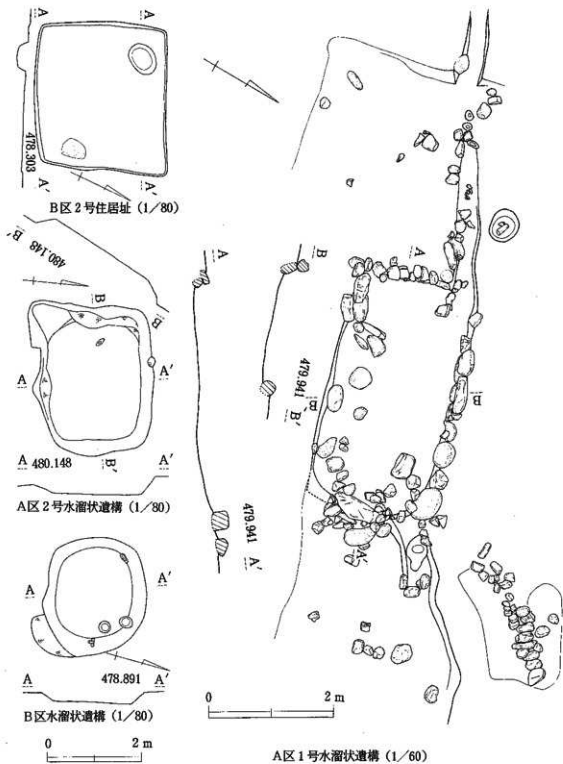
〈B区5号地下式土城〉 (第49図)

B区北西側に位置する。確認面からの地下室の深さは2 m前後を測る。竪坑は入り口部で漏斗状に開く形態のもので、垂直に入り込み、一段下がって東側に地下室を設けてある。漏斗状の入り口部分には閉塞石であろうか、礫がぎっしり詰まっていたため当初は集石土坑として発掘を行った経緯がある。地下室の平面形は長辺の膨らんだ隅円長方形を呈する。規模は一番膨らんだ部分で、5 m×2.1 mを測る。天井は湾曲は少ないがアーチ形の類であろう。床面はほぼ平坦であるが、奥に2カ所と竪坑からの入り口南東側に1カ所穴が掘られていた。

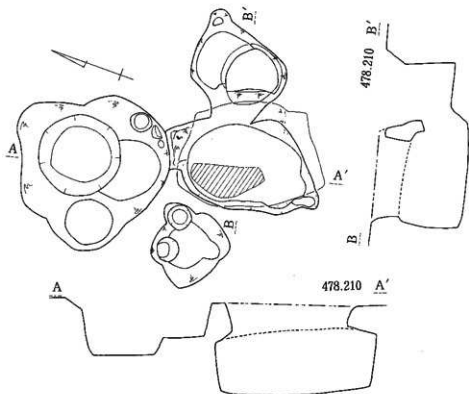
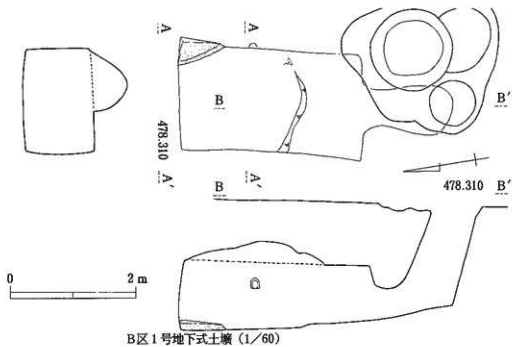




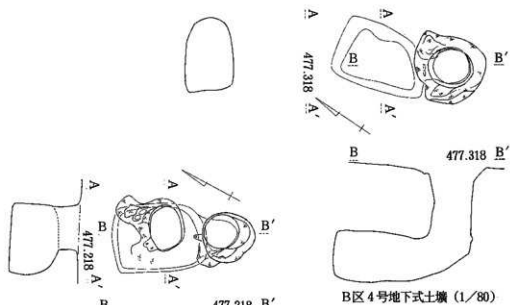
第46图 北堂地遺跡遺構平·断面图



第47图 北登地遺跡遺構平・断面図

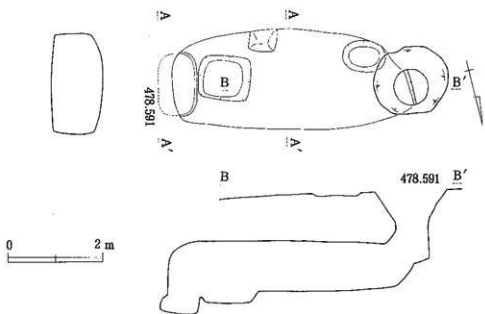


第48图 北堂地遺跡遺構平・断面図



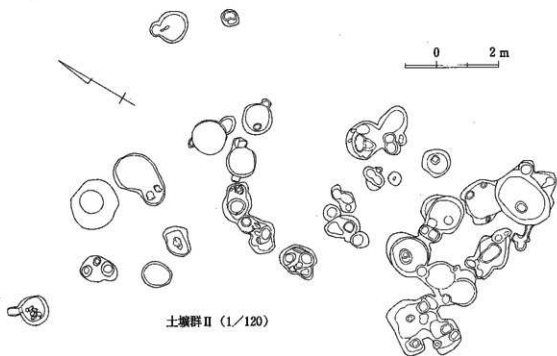
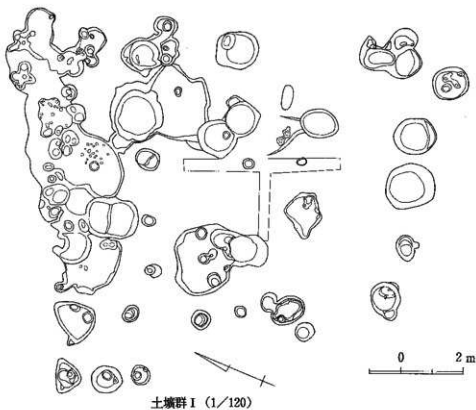
B区3号地下式土塙 (1/80)

B区4号地下式土塙 (1/80)

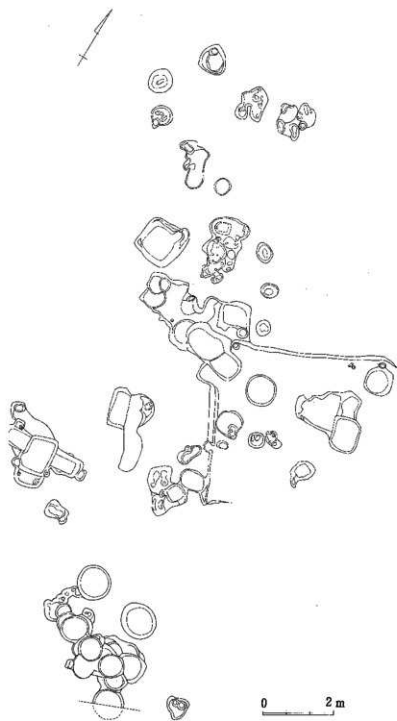


B区5号地下式土塙 (1/80)

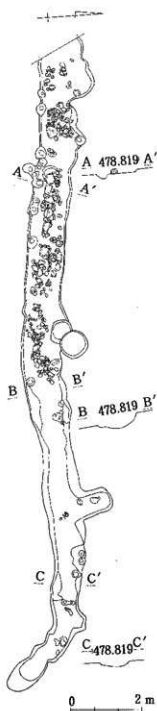
第49图 北登地遺跡遺構平・断面図



第50図 北堂地遺跡遺構平面図

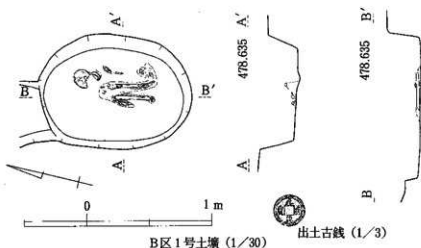


土壤群Ⅲ (1/160)



B区1号溝状遺構 (1/160)

第51图 北堂地遺跡遺構平·断面图



第52図 北堂地遺跡遺構平・断面図

〈土壌〉 (第50・51図)

B区から100基あまりの土壌・ピットが検出された。これらのほとんどが直径1m前後の円形の土壌であり、その他方形のもの・小規模のもの・不整形のものとなっている。出土物が無く遺構の性格は不明であるが、円形のものには墓墳であろうか。紙幅の都合上平面図を掲載するのみにとどめておく。

〈B区1号溝状遺構〉 (第51図)

B区北半部に位置する。西から東に流れをもつ。西半分には石があり、南側縁に沿って小坑が検出された。

〈B区1号土壌〉 (第52図)

B区東端に位置する。平面形は楕円形を呈し、規模は1.2m×90cmを測る。本土壌からは足を折り曲げ、顔を西向き頭を北方向にして横臥した状態で人骨が検出された。周辺から古銭が出土している。近世の墓墳であろう。

2 遺物

調査の結果出土した遺物は、遺構にあわせて縄文時代から近世まで多岐にわたっている。遺構の順序に従ってみていこう。A区1号住居址・B区2号住居址・B区3号住居址からは土師器片が出土しているが、遺構から出土した遺物で図化不可能のものはのせなかった。

〈A区2号住居址出土遺物〉 (第53図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量	胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
1	縄文土器	深鉢	-, 16.6, -	細かい白色粒子、砂粒を含む	内面-黄褐色 外面-黄褐色	内面-磨き 外面-口縁部無文 頸部は粘土ひもが横走し、その間に蛇行した粘土ひもが施されている。 口縁部破片

番号	種類	器形	法 量			胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高	口径	底径			
2	縄文 土器	深鉢?	—	—	—	微砂粒を含む	黒褐色 (一部にぶい 黄褐色)	内面一磨き 外面一胴部は沈線と充腐縄文による 文様、頸部に「8」字貼付文あり。 頸部破片
3	縄文 土器	土製 円盤	—	—	—	粗い赤色粒子 砂粒を含む	明褐色	外周に捺痕がみとめられる。 破片
4	縄文 土器	深鉢?	—	—	—	粗い 白色粒子、砂 粒を含む	にぶい褐色 (一部灰褐色)	2本の隆帯の間に粘土ひもを蛇行 させた弧状文を描き、その間に太 い縦条線が施されている。 破片
5	石器	石匙						
6	石器	斧						
7	石器	斧						
8	石器	凹石						捺痕あり
9	石器	凹石						

<A区3号住居址出土遺物> (第53図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法 量			胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高	口径	底径			
1	縄文 土器	深鉢	—	—	—	砂粒を含む	にぶい黄褐色 (内面一部黒 変)	内面一磨き 外面一胴部に2本の粘土ひもが横 走し、下の粘土ひもから逆J字文 (内面一部黒変)が何ヶ所か施され、その下から蛇 行した縄文が一垂直下し、胴部は 縄文が施されている。 胴部破片
2	縄文 土器	深鉢	—	27.2	—	細かい砂粒を 含む	暗赤褐色	内面一磨き 外面一口径部無文、頸部に沈線と 蛇行した粘土ひもによる文様が施 されている。 口径部破片
3	縄文 土器	器台	7.6	20.4	16.2	粗い 白色粒子、砂 粒を含む	にぶい黄褐色 (一部黒変)	台部は指で磨きにより平坦に作 られ、脚部に穿孔がある。脆い。 2/5欠損
4	縄文 土器	深鉢?	—	—	—	粗い 砂粒を含む	灰黄褐色 にぶい褐色	有刺隆帯、粘土ひも、沈線、刺突 などで施文されている。 破片
5	縄文 土器	深鉢	—	—	—	細かい白色粒 子を含む	暗褐色 明褐色	区画の中は竹管状工具により施文 されている。 破片
6	縄文 土器	浅鉢	—	25.0	—	やや粗い 砂粒、金雲母 を含む	赤褐色 (一部黒変) 明褐色	器面は磨かれている。 口径部破片
7	縄文 土器	深鉢	—	—	—	細かい白色粒 子、金雲母を 含む	にぶい褐色 にぶい褐色	器面は凸凹に整形しており、その 上に蛇行した粘土ひもが垂下して いる。 破片
8	縄文 土器	?	—	—	—	白色粒子を含 む	黒褐色	内面一磨き 外面一帯系文が施されている。 破片
9	縄文 土器	深鉢	—	—	—	細かい砂粒を 含む	にぶい黄褐色 にぶい褐色	並んだ3本の隆帯による区画文の 間に縄文が施されている。 破片
10	石器	斧						



<B区1号住居址出土遺物> (第54図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	縄文土器	深鉢	—, —, 10.5	白色・赤褐色 粒子を含む	赤灰色 明赤褐色	長方形の区画の中に並行斜線が施されている。 胴部～底部破片	
2	縄文土器	深鉢	—, 20.4, —	細かい白色粒 子を付む	にぶい赤褐色 にぶい褐色	口縁部無文 胴部は有刻隆帯と並行沈線による 文様が施されている。 口縁～胴部破片	
3	縄文土器	深鉢	27.2, 14, 9.6	細かい白色粒 子を含む	にぶい赤褐色 明赤褐色	口縁部無文 胴部は長方形、菱形の区画に割り つけ、その中に並行線が施されて いる。 2/3残	
4	縄文土器	鉢	—, 43.6, —	細かい白色、 雲母粒子を含 む	褐色	口縁部、文様区画は横位に三角形 を用いて区切り、連続刺突文を隆 帯の内側又は両側に施している。 口縁～胴部破片	
5	縄文土器	鉢	—, 46, —	砂粒、白色粒 子を含む	にぶい褐色	口縁部には竹管状工具によって、 連続刺突された隆帯が施されてい る。 口縁部破片	
6	縄文土器	深鉢	—, 28.4, —	白色、金雲母 粒子を含む	褐色 (一部黒変)	口縁部外側に条線がめぐる 頸部は長楕円形の区画文、胴部に 縄文が施される。 口縁～胴部破片	
7	縄文土器	深鉢 (脚台)	—, —, 5.5	砂粒、白色、 雲母粒子を含 む	明赤褐色	脚台部に円、三角形の孔があく。 脚台部破片	
8	縄文土器	深鉢	—, —, —	細かい白色粒 子を含む	にぶい褐色 灰褐色	隆帯と縄文が施される。 破片	
9	縄文土器	深鉢	—, —, —	細かい白色粒 子を含む	にぶい黄褐色 灰黄褐色	口縁部に縄文 胴部には隆帯が施されている。 口縁～胴部破片	
10	縄文土器	深鉢	—, —, —	砂粒、白色、 雲母粒子を含 む	明赤褐色	口縁部無文 胴部に刺突された隆帯がみられる。 破片	
11	縄文土器	深鉢	—, —, —	白色粒子を含 む	にぶい褐色 にぶい赤褐色	口縁部無文 胴部には指指の腹で押した押印文 の隆帯と縄文が施されている。 破片	
12	縄文土器	深鉢	—, —, —	細かい白色粒 子を含む	にぶい褐色 (一部黒変) 褐色	器面に隆帯を施し、その上に竹管 状工具により刻目等をつけてある。 口縁～胴部破片	
13	縄文土器	深鉢	—, —, —	微砂粒を含む	暗褐色 褐色	区画内に連続押印文等が施されて いる。 破片	
14	縄文土器	深鉢	—, —, —	白色粒子を含 む	灰褐色 褐色	楕円形の特徴的な施文 破片	
15	石器	石棒					
16	石器	凹石					
17	石器	斧					

<A区4号住居址出土遺物> (第55図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	土師器	環	3.5, 12.1, 4.0	赤・白色粒子 を含む	にぶい褐色 褐色	ロクロ水挽き 外面一体部下半へう削り 底部回転系切り後へう削り 一部欠損	

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
2	土師器	皿	2.9,	-, 6.8	白・黒色微粒子、赤色粒子を含む	褐色	ロクロ水挽き 外面-底部回転ネ切り痕 3/5残
3	土師器	皿	1.8,	8.4, 4.8	微砂粒を含む	明赤褐色	ロクロ水挽き 外面-底部回転ネ切り痕 後世の混入品か 1/3残

<A区5号住居址出土遺物> (第55図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	土師器	坏	-,	-, 4.8	微砂粒、赤・黒色粒子を含む	にぶい褐色 (外面一部黒変)	ロクロ水挽き 外面-体部下半~底部へう割り 底部破片
2	土師器	甕	-,	26.0, -	やや粗い 金雲母、砂粒 多量を含む	にぶい赤褐色	口縁部一横撫で 内面-胴部横刷毛目 外面- " 縦刷毛目 口縁部破片
3	土師質	内耳 土器	-,	34.6, -	やや粗い 砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい褐色	内外面一撫で 外面-煤付着 後世の混入品か? 破片
4	土師質	内耳 土器	-,	32.0, -	やや粗い 砂粒を含む	にぶい褐色	内外面一撫で 外面-煤付着 後世の混入品か? 破片

<A区水溜状遺構出土遺物> (第55図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	銅製品	匙					残存部の長さ 9.2cm 匙部の最大巾 1.9cm 柄部の最大巾 0.6cm 柄の先端欠損
2	土師質	内耳 土器	-,	-, 24.0	やや粗い 砂粒を含む	にぶい黄褐色	底部破片

<B区3号地下式土壇出土遺物> (第56図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	土師器	皿	2.7,	10.4, 5.6	金雲母、砂粒 を含む	にぶい黄褐色	ロクロ水挽き 底部回転ネ切り痕 1/4残
2	土師器	皿	2.4,	11.9, 6.8	金雲母を含む	にぶい黄褐色	ロクロ水挽き 外面-煤付着、口縁部横撫で 底部回転ネ切り痕 2/5残
3	石器	凹石					ひで鉢の類か?
4	石器	凹石					ひで鉢の類か?

<B区5号地下式土壇出土遺物> (第56・57図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法量		胎土	色調(内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	石器	凹石					
2	石器	臼					臼の破片
3	古銭						

<B区1号溝状遺構出土遺物> (第57・58図)

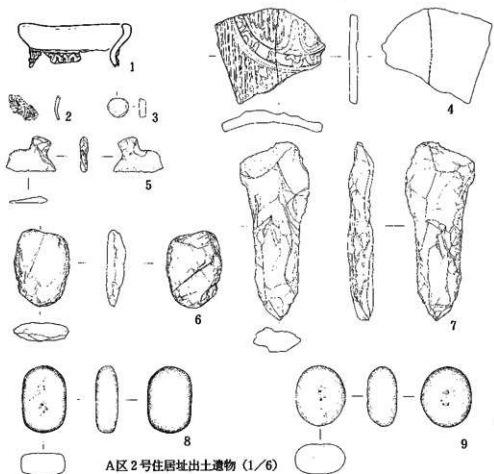
(単位 cm)

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	土師器	搦り鉢	-	32.0	-	赤・黒色粒子を含む	内面 外表面 色調 (一部黒灰) 6条の溝がつけられる 破片
2	土師器	搦り鉢				赤・黒色粒子を含む	内面 外表面 色調 (一部黒灰) 何条かの溝がつけられる 底部破片
3	石器	五輪鉢					空風輪 安山岩製
4	石器	ひで鉢					破片
5	石器	ひで鉢					破片
6	石器	ひで鉢					破片
7	石器	ひで鉢					破片
8	石器	凹石					ひで鉢の類か?
9	石器	凹石					ひで鉢の類か?

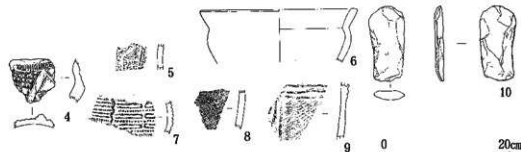
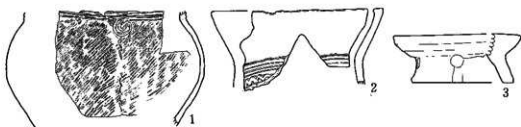
<遺構外出土遺物> (第59図)

(単位 cm)

番号	種類	器形	法 量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	縄文土器	深鉢	-	-	10.8	砂粒を含む	内面一磨かれている 外面一部は縄文を地文として、さらに蛇行状に縄文を懸垂させてある。 単独埋蔵か? 1/4残
2	縄文土器	浅鉢	12.0	15.5	9.5	砂粒を含む	内面一磨かれている 外面一口縁部は隆帯によるうず巻文、半内彫と縄文によるモチーフが施される。 1/4残
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	砂粒を含む	内面一磨き 外面一横帯区劃文と縄文が施されている。 破片
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	粗い砂粒を含む	内面一磨き 外面一隆帯で区劃されている 口縁部内傾 破片
5	石器	石皿					
6	土師器	皿	2.35	12.2	6.3	金雲母、微砂粒を含む	淡黄褐色 (一部黒灰) ロクロ水挽き 底部回転糸切り痕 1/2残
7	土師質	内耳土器	-	-	25.0	砂粒を含む	黒褐色 内外面一撫で、椀付着 器壁は底部よりほぼ直立 1/3残
8	土師質	内耳土器	19.5	31.0	26.0	砂粒を含む	暗褐色 内面 外表面 色調 (一部黒灰) 内外面一撫で、椀付着 器壁は底部よりほぼ直立し、口縁部で段をもって外反する 1/4残
9	土師質	内耳土器	-	-	22.6	砂粒を含む	内面一撫で 底部破片
10	古瀬戸	卸皿	26.0	11.0	6.0	砂粒を含む	淡黄色 口縁部灰釉 口縁部に片口風に外反した箇所が見られる、底部回転糸切り痕 1/3残



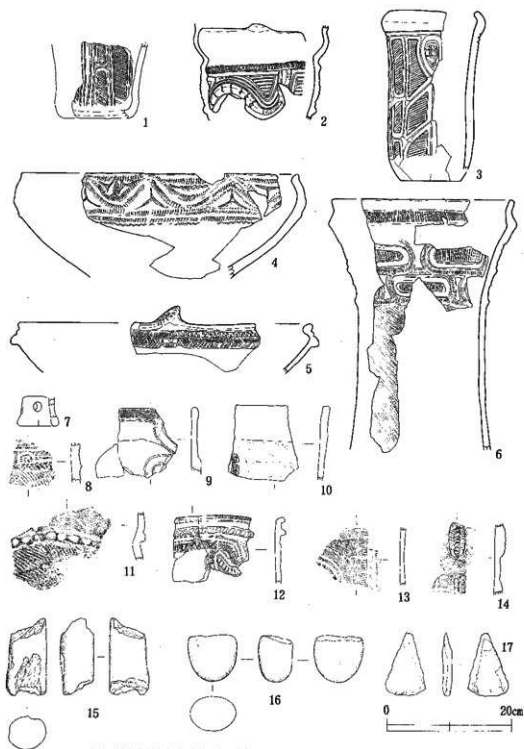
A区2号住居址出土遗物 (1/6)



A区3号住居址出土遗物 (1/6)

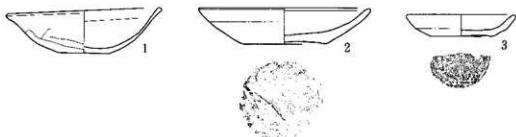


第53图 北堂地遺跡出土遺物

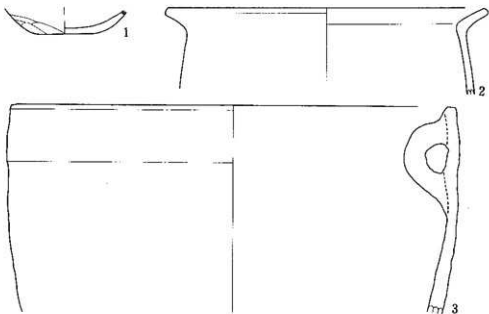


B区1号住居址出土遗物 (1/6)

第54图 北堂地遺跡出土遺物



A区4号住居址出土遺物 (1/3)

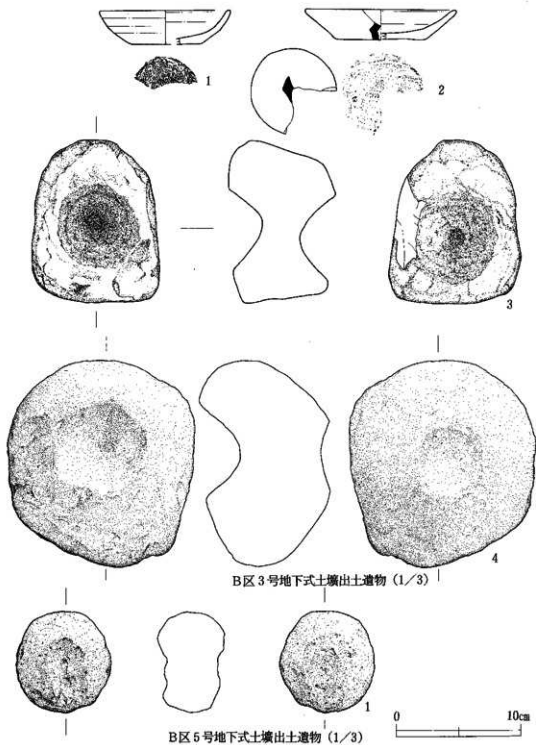


A区5号住居址出土遺物 (1/3)

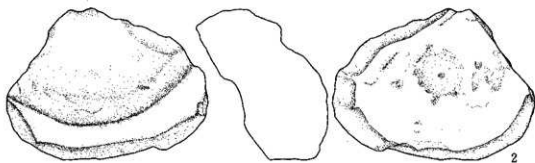


A区水溜状遺構出土遺物 (1/3)

第55図 北堂地遺跡出土遺物



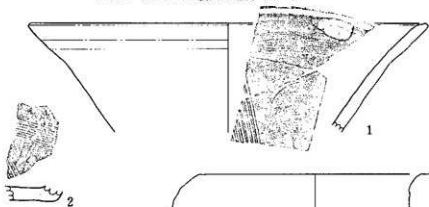
第56图 北堂地道出土遗物



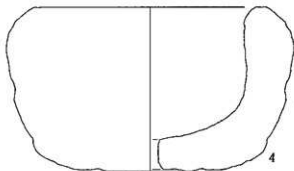
3

0 10cm

B区5号地下式土坑出土遗物 (1/3)



3



4

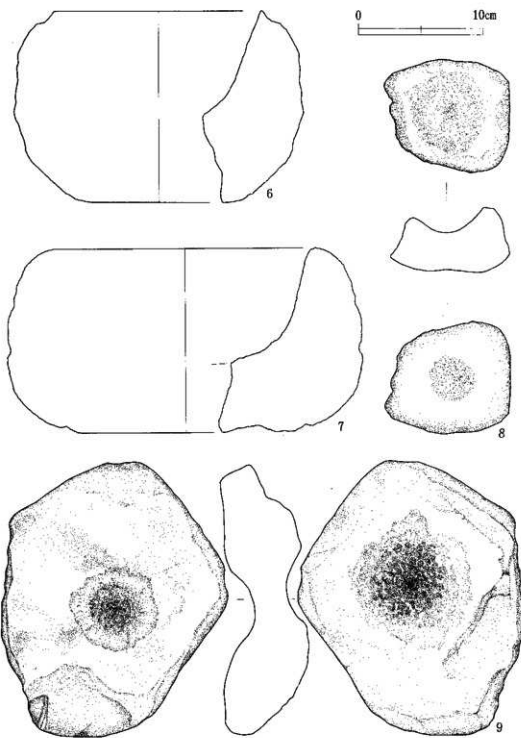


5

B区1号沟状遗槽出土遗物 (1/3)

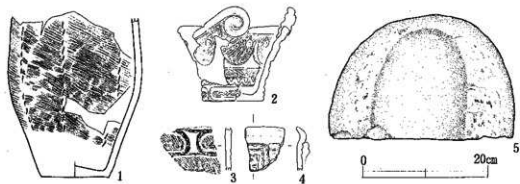
第57图 北堂地遗址出土遗物



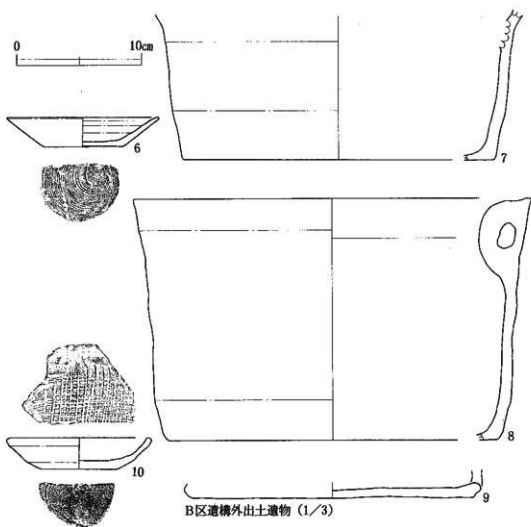


B区1号溝状遺構出土遺物 (1/3)

第58図 北堂地遺跡出土遺物



遺構外出土遺物 (1/6)



B区遺構外出土遺物 (1/3)

第59図 北堂地道跡出土遺物

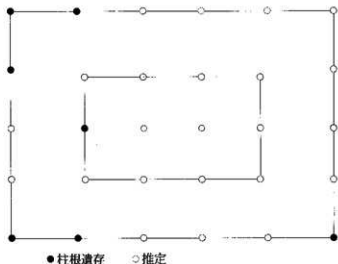
# [ 総 括 ]

## ま と め

### 1 宮ノ前第2遺跡

今回の調査では奈良時代の掘立柱建物址4棟、平安時代の竪穴住居址10軒が検出され、そのほかに溝状遺構11条、土壇4基等が見つかっている。これらの遺跡からは、土師器・須恵器の坏・皿・甕等生活用具が出土しており、当時の生活を知る上で貴重な資料となっている。また、東西約13m南北約9mの規模をもつ四間×五間の4号掘立柱建物址は、他に類例のない二間×三間の身舎（もや）部分の柱穴に石を用いた堅固なつくりで、身舎（もや）を取り囲む四間×五間の柱穴は身舎（もや）部分よりも浅いものとなっており、四面庇付きの特殊な建物と考えられる。

4号掘立柱建物址周辺からは丸瓦・平瓦・鬼瓦が出土しており、瓦塔の破片等も発見されていることから、仏教にかかわりのある建物——仏堂と推測される。調査結果をもとに建物の柱間を推定した模式図を見よう。柱は円柱で直径約25cm、束柱はやや小さいようである。身舎（もや）の桁行は三間で柱間寸法は2.1m（7尺）、梁行は二間で柱間寸法は1.8m（6尺）。底部分の桁行は五間で柱間寸法は東から西へ2.4m（8尺）—2.4m（8尺）—2.1m（7尺）—2.4m（8尺）、梁行は四間で柱間寸法は南から北へ2.1m（7尺）—1.8m（6尺）—2.1m（7尺）—2.1m（7尺）。身舎（もや）との間隔は、桁行2.7m（9尺）、梁行は南側で2.1m（7尺）、北側で2.4m（8尺）となっている。この平面形態からどのような建物が構築されていたかを復元することは容易ではなく、柱穴の構造と合わせ今後の検討課題としておきたい。



第60図 4号掘立柱建物址建物模式図 (1/150)

宮ノ前第2遺跡は、平成元年～2年に調査された宮ノ前遺跡の北に位置しており、奈良・平安時代の集落と寺院とのかかわりからも注目される遺跡と言える。古代の寺院の調査事例は各地の国分寺・国分尼寺をはじめ白鳳時代の廃寺等の発掘が進むなか近年増加しつつあるが、本遺跡のような地方寺院の発見は珍しく、貴重な資料であるということが出来る。当時の仏教文化を理解するうえで意義のあるものであろう。

7号住居址からは、やや尖った底部とゆるやかに内湾する口縁部の特徴的形態をもつ鉢、轆轤水挽成形で縦長の胴部とゆるやかに外反する口縁部の独特な形態の壺Gが出土している。形態から鉢は奈良時代に比定でき、壺Gは長岡京時代(784~794年)を中心に使用されたものである。特に壺Gは限定された期間に使用されたもので遺構や遺物の暦年代を推定するのに有効である。両遺物は8世紀末前後の年代観で捉えられることになるが、7号住居址の他の遺物は甲斐地域の編年で9世紀代に位置付けられており、年代に差が出てしまう。本住居址の遺物を資料として、編年の年代観がより暦年代に近いものとなって行く事であろう。今後の研究に期待することとしたい。

1号土壌は中世の遺構で、薄い板の上に銭をおいて埋葬したものと考えられる。4号土壌も同様に板の上に古銭がのせてあり、埋葬にかかわるものであろう。遺構は明確でなかったが、このほかにも板と古銭のセットが検出されており、土壌であった可能性がある。当時の葬制を知る上で重要であろう。

## 2 北堂地遺跡

調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居址3軒、平安時代の竪穴住居址5軒、中世の地下式土壌5基、水溜状遺構3基、その他海状遺構1条、土壌100基あまりが発見された。

今回の発掘調査は円野地区では初めての調査であり、当該地域にも原始・古代から人間が生活していたことの証となる貴重な発見と言える。なかでも中世の石組された水溜状遺構は、館跡の存在を想定させるもので、『甲斐国志』にみえる円野村にある伊藤氏の館跡との関連が問題となつてこよう。また、戦国期に釜無川右岸の各地を拠点に活躍した武川衆の存在も気になるところである。

100基以上の土壌は、出土遺物がほとんど無いため詳細はわからないが墓塚であろうか。近世の土壌墓が一基検出されたが、土壌群とのかわりは不明である。

縄文時代の住居址は3軒であったが、当初の予定では比較的大規模な集落址を想定し発掘調査を実施した。当該地域は畑であり、古来からの耕作による擾乱・削平を考慮すれば消滅した住居もあったであろう。しかし縄文時代から確実に人々が生活していたことは明らかである。文献に残らない先史・古代の無文字社会の生活・文化は、地中に残された遺構と遺物を通してのみ理解できるといっても過言ではない。埋蔵文化財を重視する所以である。

## おわりに

宮ノ前第2遺跡並びに北堂地遺跡の今回の報告は、限られた時間の中での作業によってまとめられたものであり、遺構と各遺構から出土した遺物に主眼をおいて資料化を試み、それらを掲載・提示したにすぎない。調査の成果と資料の検討・考察が行われず不充分なものとなってしまったが、本報告書が今後の調査研究に資すれば幸いである。

なお、宮ノ前第2遺跡4号掘立柱建物址は、工法を変更し確認面から50cm程盛土を行い保存された。関係各位・諸機関の文化財保護に対するご理解とご協力に感謝する次第である。

# [ 附 編 ]

## 宮ノ前第2遺跡出土瓦の胎土分析

山梨文化財研究所 河 西 学

1 はじめに 土器を構成する物質は粘土・シルト・砂などの堆積物が主な原材料として用いられている。そこで土器中に含まれる砂の岩石鉱物の特徴からそれらの砂の分布地域を土器産地と推定することが可能だ。宮ノ前第2遺跡は奈良・平安時代の遺跡であり、奈良時代の瓦が多量に出土した。甲府盆地で出土した瓦の胎土分析結果（河西、1990 a, 1990 b）、および甲府盆地内での河川砂組成（河西ほか、1989；河西、1989）との比較により本遺跡出土瓦の産地推定を試みた。

2 遺跡周辺の地質 藤井平と称されるこの一帯は、塩川によって形成された北北西—南南東方向にのびる沖積低地で、東西両側を垂崎岩屑流堆積物と黒富士火砕流からなる急崖に挟まれている。斑山から塩川上流域において、主として砂岩・頁岩・チャートからなり一部に緑色岩を伴う白亜系増富層群が露出する。瑞籬山・金峰山周辺には甲府花崗岩体が分布する。八ヶ岳火山・横尾山・茅ヶ岳には安山岩が分布する。黒富士火山には、デイサイト質・安山岩質の火砕流堆積物や火山岩が分布している。

3 試料・分析法 試料は、本遺跡出土の平瓦11点、丸瓦5点、鬼瓦1点、塼4点である（第1表、写真図版13）。分析法は従来の方と同一である（河西、1990 a, 1990 b）。

4 岩石鉱物組成 分析結果を第2表に示す。これをもとに試料全体の砂粒子・赤褐色粒子・マトリックスの構成を示した全体構成図、および砂粒子の岩石鉱物組成・重鉱物組成などを第①図に示す。なお重鉱物組成では右側に基数を表示した。以下に特徴を述べる。

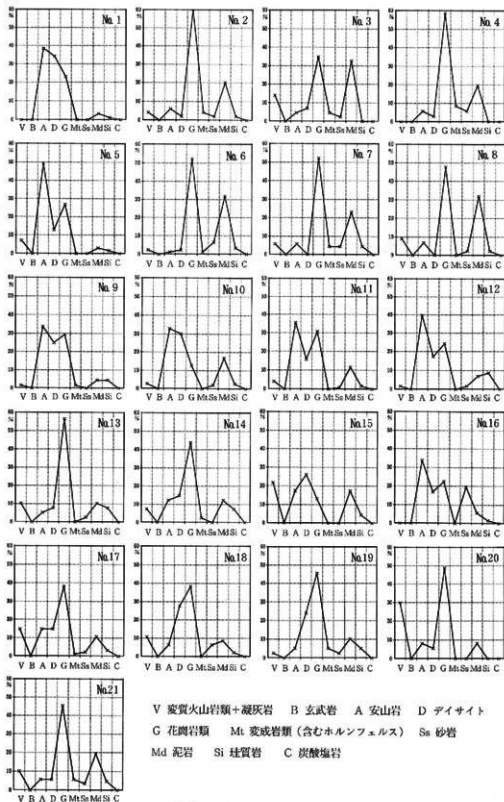
平瓦 全体構成では、砂粒子10.7~16.1%、赤褐色粒子0.8~2.8%、およびマトックス83.2~88.1%であり、試料ごとの組成変化が少ない。岩石鉱物組成では、石英・カリ長石・斜長石・花崗岩類・泥岩・火山ガラスなどが普通に検出される。Nos. 1, 5, 9, 10, 11では安山岩・デイサイトが数%以上含有されている。計数した重鉱物が少ないことから重鉱物組成はバラツキが大きい。傾向として安山岩・デイサイトが多い場合には、酸化角閃石・単斜輝石・斜方輝石が多く、黒雲母が少ない。花崗岩類の多いNos. 2~4とNos. 6~8では黒雲母・角閃石・不透明鉱物が多い。まれに緑簾石・ジルコン・電気石などが検出される。

第1表 試料表

試料番号	種類	地点	表面の特徴
1	平瓦	遺跡外	内面は布目、凸面は織目
2	平瓦	1号住 K 2	内面は布目、凸面は織目
3	平瓦	遺跡外	内面は布目、凸面は織目
4	平瓦	1号溝	内面は布目、凸面は織目
5	平瓦	1号溝	内面は布目、凸面は織目
6	平瓦	5号住	内面は布目、凸面は織目
7	平瓦	8号溝	内面は布目、凸面は織目
8	平瓦	3号溝 K-1	内面は布目、凸面は織目
9	平瓦	トレンチ	内面は布目、凸面は織目
10	平瓦	土器捨て場 E-9	内面は布目、凸面は織目
11	平瓦	1号住カマド	内面は布目、凸面は織目
12	丸瓦	11号住	凸面は布目、内面は布目
13	丸瓦	土器捨て場 E-4	内面は布目、凸面は布目
14	丸瓦	土器捨て場	内面は布目、凸面は布目
15	丸瓦	8号溝	凸面は布目、内面は布目
16	丸瓦	2号住 K 17	内面は布目1面、凸面は布目
17	鬼瓦	10号住	
18	塼	3号住	両面布目
19	塼	3号住 P 6	片面布目、他面は短粒砂が全面付着
20	塼	8号住	両面布目
21	塼	3号溝	両面布目







第②回 岩石組成折れ線グラフ



a. 折れ線グラフ 折れ線グラフは、各試料ごとに多様である。類似性の高いパターンもいくつかあり、これらの試料は産地が同一である可能性が高い。花崗岩類・安山岩・デイサイト・泥岩などに注目し以下のように分類した。

(1) 花崗岩類が最大のもの

I群 花崗岩類>泥岩 Nos.2,3,4,6,7,8,13,20,21 (No.3は花崗岩類≒泥岩、  
No.21は変質火山岩類が多い)

II群 花崗岩類>デイサイト≒安山岩>泥岩 Nos.14,17

III群 花崗岩類>デイサイト>泥岩 Nos.18,19

(2) 安山岩あるいはデイサイトが最大となるもの

IV群 安山岩>デイサイト>花崗岩類 Nos.1,10

V群 安山岩>花崗岩類>デイサイト Nos.5,9,11,12,16 (No.16は砂岩が多い)

VI群 デイサイト>安山岩>花崗岩類 No.15

以上の分類を甲府盆地の河川砂組成(河西、1989)と比較すると、必ずしも一致するわけではないが、I群と釜無川地域のH型、III群と荒川地域のI型とに類似性が見られる。

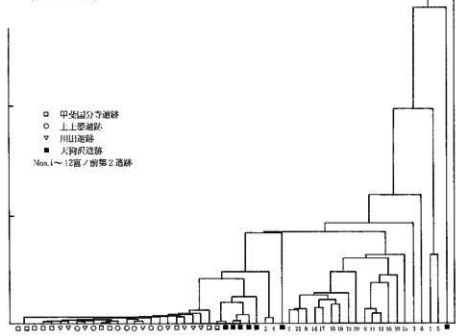
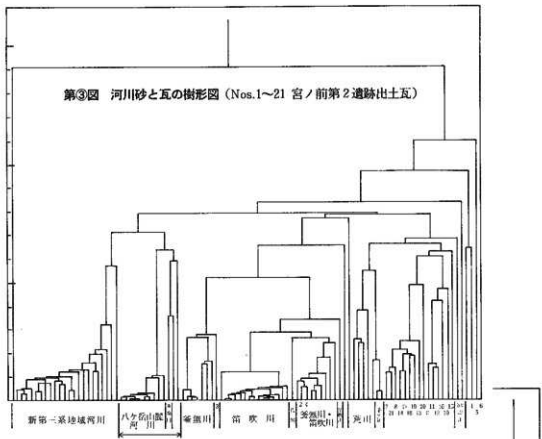
b. クラスタ分析 クラスタ分析は、個体間の類似性の情報から個体を分類することができる。はやく融合した試料ほど岩石組成の類似性が高く、産地が近いとみなせる。

第③図は甲府盆地河川砂と本遺跡出土瓦とを比較した樹形図である。No.3は釜無川地域のH型と類似性が高い。Nos.2,4は、釜無川・笛吹川地域の河川砂の領域に含まれている。Nos.7~12は、まとまったクラスターを形成し、荒川および茅ヶ岳山麓河川砂と融合後、塩川河川砂b(駒井付近)と融合する。Nos.1,5,6は大部分の河川砂・互試料が融合後にこれらと融合している。

第④図は、一宮町甲斐国分寺遺跡、甲府市川田遺跡・上土器遺跡、および敷島町天狗沢遺跡での出土瓦と比較した樹形図である。本遺跡の瓦は、甲斐国分寺・川田・上土器遺跡の瓦とは類似性が低い。天狗沢遺跡とは前の3遺跡よりも類似性が若干あるものの個々に類似性がきわめて高い試料があるわけではない。また本遺跡出土瓦の個体間の類似性が他遺跡ほど高くないことから、瓦胎土が多様性に富むことを本遺跡の特徴としてあげることができる。

6 産地の推定 折れ線グラフによる視覚的な分類とクラスタ分析による数値的分類とで必ずしも分類が一致しない。産地推定ではこれらの結果を総合的に判断する必要がある。なお塩川流域は複雑な地質にもかかわらず河川砂の分析例が十分ではないが、周辺地質からしてこの地域の砂は花崗岩類・安山岩・デイサイト・泥岩・砂岩などから主に構成されているはずである。

甲府盆地でのデイサイトの分布の中心は黒富士火山を中心とする塩川・荒川地域である。デイサイトがふつうに含まれるII~VI群のNos.1,5,9,10,11,12,14,15,16,17,18,19は、塩川・荒川地域に産地が求められる可能性が高い。ただし本遺跡では、荒川地域段丘堆積物を原材料として使用していた可能性が指摘されている天狗沢遺跡の瓦ときわめて類似性の高い試料はない。地理的条件からすると塩川地域が産地である可能性のほうが高いと推定されるが、塩川・荒川地域のなか



第④図 山梨県内出土瓦の樹形図

でさらに産地を限定するのは現段階では困難である。これらのⅡ～Ⅳ群瓦は在地性とみなせる。

折れ線グラフの分類でⅠ群とされた瓦のうち、第③図では№3が釜無川、Nos.2,4は釜無川・笛吹川地域との類似性が高く、Nos.7,8,13,20,21は塩川地域との類似性が示された。Nos.2,4は荒川と合流後の笛吹川下流（田富町三珠町間桃林橋付近）の砂ときわめて類似性が高く、またこの一群のクラスター中には韭崎市一ツ谷付近の釜無川砂も含まれる。№3は、個々の釜無川の砂と類似性がきわめて高いわけではないが、花崗岩類と泥岩が多い傾向がある。釜無川の砂で泥岩が花崗岩類とほぼ同量含有されるのは、信玄橋付近・小武川（上円井）・上教来石付近である。しかし塩川上流には、泥岩などを主体とした増富層群と金峰山周辺の花崗岩類が分布していることから、№3あるいはNos.2,4と同様の岩石組成を示す堆積物の存在が予想される。Nos.7,8はデイサイトが計数されていないが、第③図では塩川・荒川地域河川砂と融合されている。従来のデイサイト含有の特徴からすると異質な分類であるが、おそらくⅡ群（Nos.14,17）と№21との類似性を媒介してNos.7,8がこれらのクラスター中に含まれているものと推定される。しかし多少の含有率の相違はあるがⅠ群中の各瓦は岩石組成が類似している。前述したようにNos.2,3,4が釜無川との類似性が示されていることから、Nos.7,8ばかりでなくNos.13,20,21は、塩川・荒川地域のみに限定せず、釜無川地域の可能性も考えておくべきだろう。

7 瓦の種類と胎土 平瓦・丸瓦はそれぞれ多様な胎土の瓦が混在していて器種と胎土の岩石鉱物組成間に明瞭な規則性は認められない。平瓦よりも丸瓦の方が、全体構成において砂分が少なくマトリックスが多い傾向があり、薄片作製時にはやや硬くて緻密さが感じられる。これらの傾向は土器の製作技術の差を反映している可能性があるかもしれない。

8 まとめ 本遺跡出土瓦を岩石学的手法で分析した岩石組成に基づき折れ線グラフ・クラスター分析によって分類した。その結果Ⅱ～Ⅵ群の瓦は塩川・荒川地域に産地が推定され、Ⅰ群の瓦は一部笛吹川地域を含む釜無川地域および塩川（特に上流域）・荒川地域に産地の可能性が推定された。また他遺跡出土瓦と比較して胎土の岩石組成の多様性が認められた。これは周辺地質の複雑さからくる原料の多様性によるものか、あるいは複数の異なる産地から供給されたことによるものかまだ明らかではない。今後、遺跡周辺特に塩川流域の地質データの充実により産地推定の精度を向上させ、考古学的事実をふまえ互産地と本遺跡との関係について検討していく必要がある。

注 樹形図は、非類似度をユークリッド平方距離で定義した最短距離法クラスター分析による。

#### 文献

河西 学（1989）甲府盆地における河川堆積物の岩石鉱物組成—土器胎土分析のための基礎データ。山梨県考古学論集、Ⅱ、505—523。

河西 学（1990 a）岩石学的手法による天狗沢瓦窯跡瓦の胎土分析。『天狗沢瓦窯跡』、敷島町教育委員会、106—114。

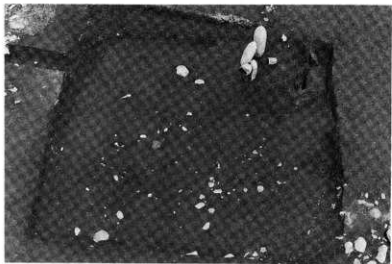
河西 学（1990 b）甲斐国分寺遺跡出土瓦の胎土分析。『甲斐国分寺跡』、一宮町教育委員会。

河西 学・藤原功一・大村昭三（1989）八ヶ岳南麓地域とその周辺地域の縄文時代中期末土器群の胎土分析。山梨文化財研究所研究報告、1、1—64。

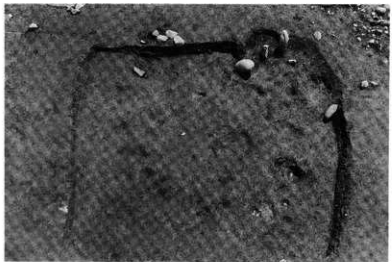
写 真 图 版



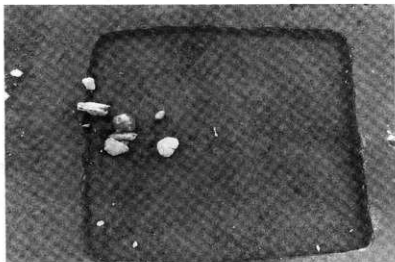
遺跡遠景



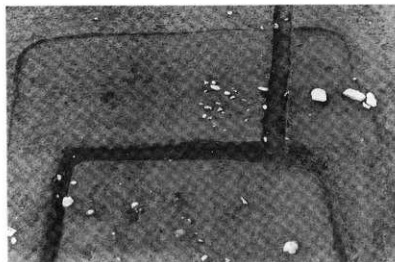
1号住居址



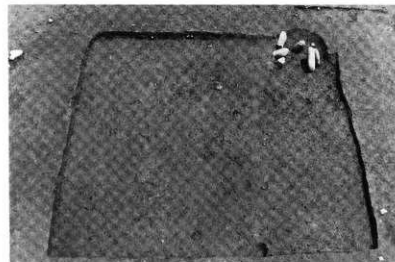
2号住居址



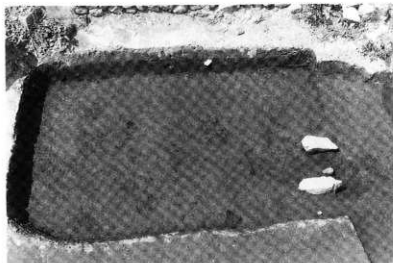
3号住居址



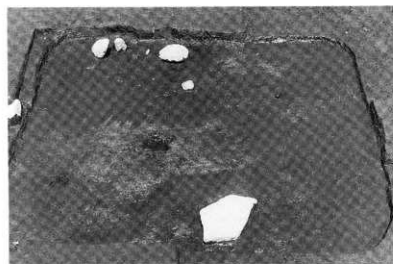
4号住居址



5号住居址



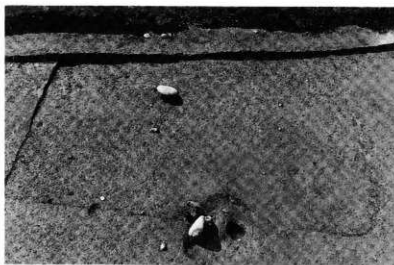
6号住居址



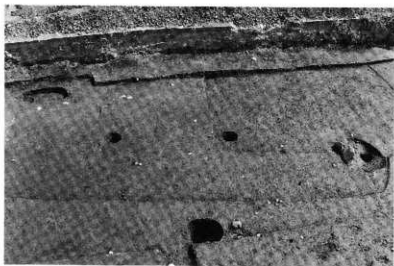
7号住居址

遺物出土状態





8号住居址



9号住居址

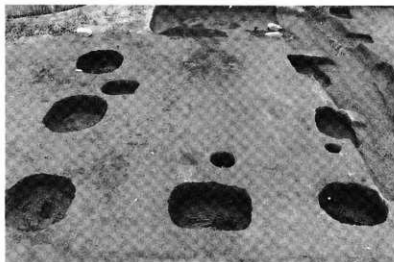


10号住居址

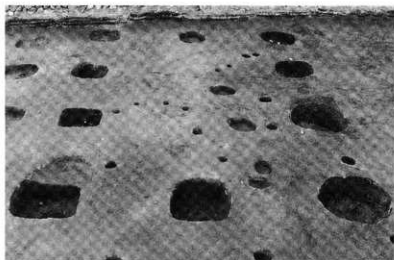




1号掘立柱建物址



2号掘立柱建物址



3号掘立柱建物址



4号掘立柱建物址  
及び遺跡近景



4号掘立柱建物址



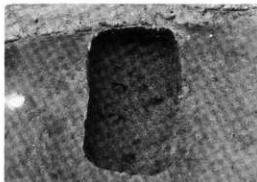
柱根

身舎部分





1号土坑



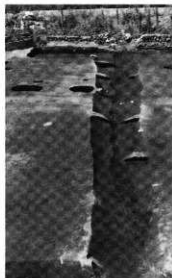
2号土坑



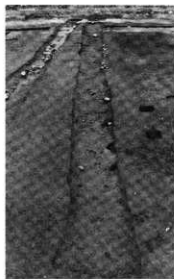
1号溝状遺構



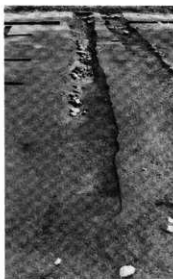
3号溝状遺構



4号溝状遺構



8号溝状遺構



9号溝状遺構



10号溝状遺構



3



4



5



7



8



9



10



10(墨書)



12

1号住居址出土遺物



3



4



5



6



7



8



9



12



13



14



15



18



14(墨書)



16

2号住居址出土遺物



11



12

3号住居址出土遺物



5

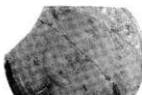


7

4号住居址出土遺物



1



1 碗掠底



4



5



8



9



10



11



15

5号住居址出土遺物



1



2



3



6

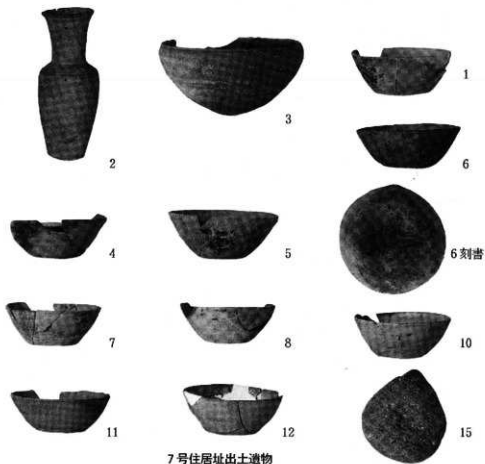


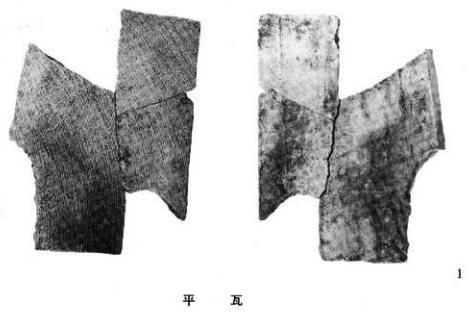
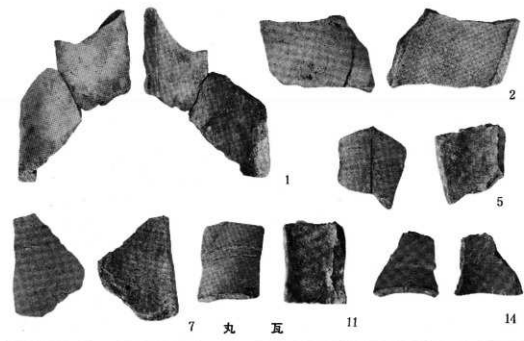
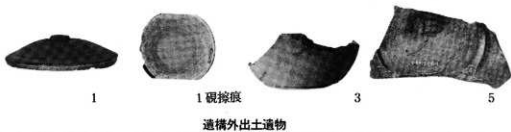
8



10

6号住居址出土遺物







2

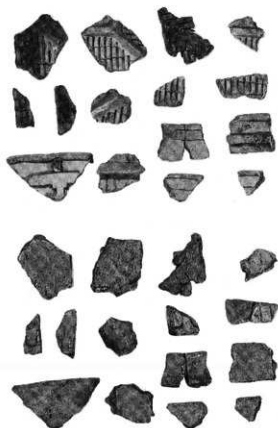
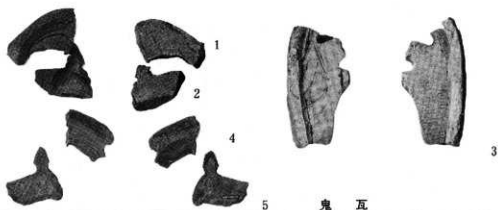


8



10

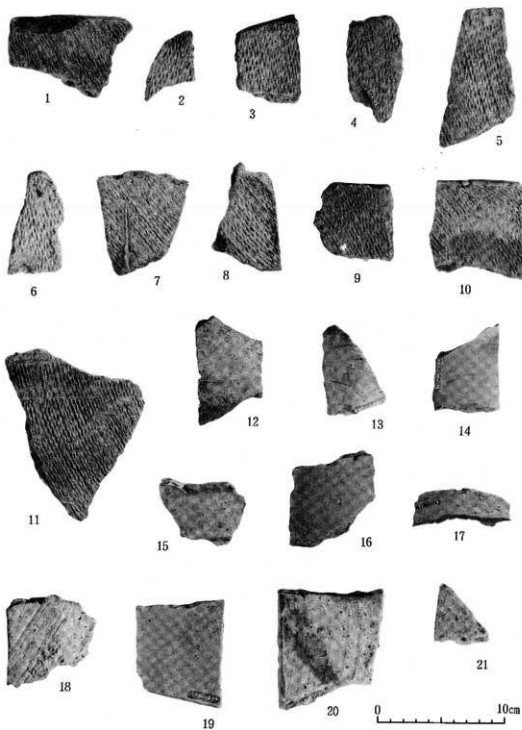




瓦塔



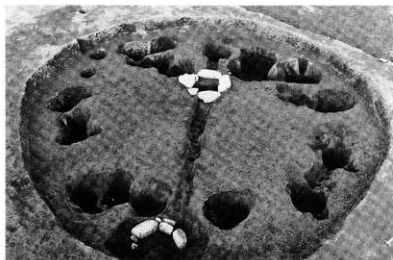
土製品



胎土分析した瓦材料（数字は試料番号）



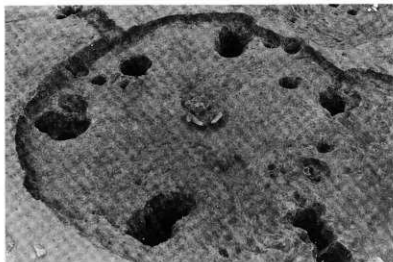
遺跡遠景



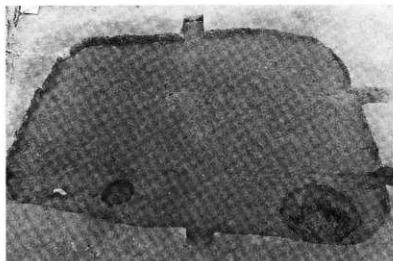
A区2号住居址



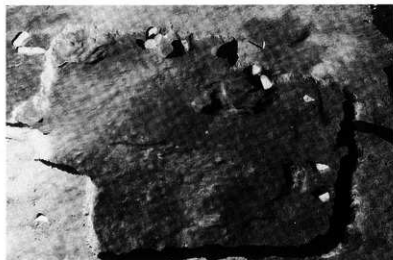
A区3号住居址



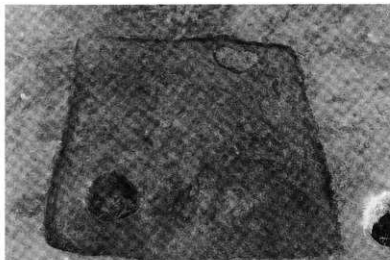
B区1号住居址



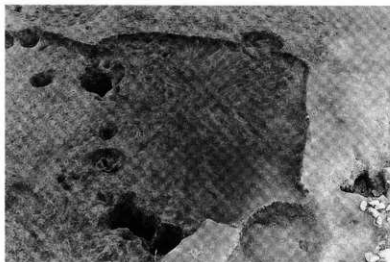
A区1号住居址



A区4・5号住居址



B区2号住居址



B区3号住居址



遺跡発掘風景



A区1号水溜状遺構



B区1号溝状遺構

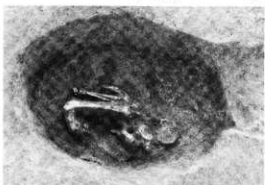


入口方向



B区5号地下式土壤内部

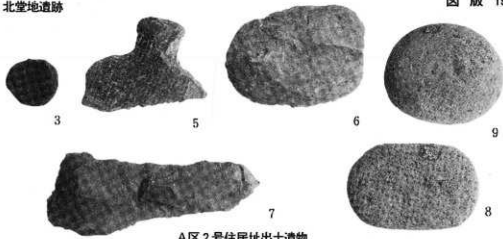
奥



B区1号土壤



B区近景



A区2号住居址出土遺物



A区3号住居址出土遺物



B区1号住居址出土遺物



A区4号住居址出土遺物



A区1号水溜状遺構出土遺物



2



3



4

B区3号地下式土坑出土遺物



1

B区5号地下式土坑出土遺物



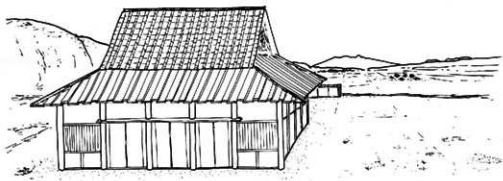
9



10

遺構外出土遺物

B区1号溝状遺構出土遺物





---

宮ノ前第2遺跡  
北堂地遺跡

発行日 平成3年3月31日

発行 韮崎市教育委員会  
〒407 山梨県韮崎市水神一丁目3-1  
TEL 0551-22-1111(代)

印刷 アートプリント社

---

